中居町一丁目遺跡5

-集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査-

2022

株式会社シン技術コンサル 高 崎 市 教 育 委 員 会

例 言

- 1. 本書は集合住宅建設に伴い実施された、「中居町一丁目遺跡第5次調査」(高崎市遺跡番号832)の埋蔵 文化財発掘調査報告書である。
- 2. 本遺跡の所在地は、群馬県高崎市中居町1丁目8番地3号である。
- 3. 発掘調査は、令和3年11月1日から令和3年12月24日まで実施した。
- 4. 発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会の指導・助言及び監督のもと、木村 隆氏から委託を受けた 株式会社シン技術コンサルが実施した。
- 5. 調査体制は以下の通りである。

高崎市教育委員会

株式会社シン技術コンサル 菊池康一郎、北村和穂

- 6. 本書の編集は、菊池・坂本勝一(シン技術コンサル)が行った。執筆は、第 I 章を高崎市教育委員会が、 それ以外を菊池が行った。遺物観察表は小林朋恵・倉石広太(シン技術コンサル)が作成した。
- 7. 本調査における図面・写真・出土遺物は、高崎市教育委員会で保管している。
- 8. 発掘調査参加者・整理作業参加者については、以下の通りである。(敬称略・五十音順) <発掘作業参加者>

佐久間展男、高橋勇太、武井知司、楡金由現、萩原陽子、橋本芳男、芳川孝夫、吉田高男、和田 勲 <整理作業参加者>

新井かをり、池田敏雄、伊藤澄代、岡田雄飛、尾嵜志保里、小林麻衣子、佐藤久美子、佐藤美帆、鈴木幸見、 鈴木澄江、須藤恭子、田島直美、茂木めぐみ、山田千鶴子、六反田達子

9. 発掘調査の実施および本書の刊行にあたり、下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。(敬称略)

渋沢テクノ建設株式会社、山下工業株式会社

凡例

- 1. 本書掲載の第1図は高崎市発行1/2,500都市計画基本図、第3図は国土地理院発行1/25,000地形図『高崎』を改変・使用した。
- 2. 遺構平面図に示した方位は座標北であり、水準線は標高を示す。座標については世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用した。
- 3. 土層および遺物の色調は、『標準土色帖』(農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所 23 版) による。
- 4. 本書における遺構種類の略号は、SI= 竪穴建物、SX= 竪穴状遺構・カマド・性格不明遺構、SD= 溝、SK= 土坑、 P= ピットである。
- 火山噴出物の表記は略号を用いた。
 浅間 C 軽石 =As-C、浅間 B テフラ =As-B、榛名 二ツ岳渋川テフラ =Hr-FA である。
- 6. 遺物番号は遺構図・遺物実測図・観察表・写真図版において共通のものを用いた。
- 7. 写真図版における遺物写真の縮尺は、遺物実測図と同じである。
- 8. 遺構・遺物実測図において使用しているトーンの凡例は、以下の通りである。 焼土範囲 炭化物範囲 赤彩範囲 赤彩範囲
- 9. 遺物観察表における法量の単位は全て cm、重量は g で記載した。() 内の数値は推定地および残存地を示す。
- 10. 遺物観察表の含有物については、以下の略称を用いた。

石:石英、長:長石、針:海綿状骨針、凝:凝灰岩、片:片岩、角:角閃石、金雲:金雲母、

絹雲:絹雲母、チ:チャート、橙:橙色粒子、赤:赤色粒子

目 次

例	Ì				
凡	列				
目	欠				
第Ⅰ章	調査	: に至る経緯 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			1
第Ⅱ章	調査	: の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			2
第Ⅲ章					
	1節				
	2 節				
第IV章	,				
第V章					
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	1節				
	2節				
	3節				
	4 節				
	5 節	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	6節	_ / -			
	7 節			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
写真図版				•	JI
報告書拍					
刊口百1	シ 业ド				
		図別	夏 目次		
第 1 図	調査図	区位置図 ・・・・・・ 1	第14図	SI6 出土遺物(2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	19
第 2 図	調査	区名称図 ・・・・・・・・2	第 15 図	SI7、SI7 出土遺物、SI8(1)・・・・・	20
第 3 図		D遺跡····· 4	第16図	SI8 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第 4 図		上層柱状図(S=1/20)・・・・・・5	第 17 図	SI8 出土遺物(1)······	
第 5 図		全体図・・・・・・・7	第 18 図	SI8 出土遺物(2)、SI10(1)·····	
第 6 図		SI 出土遺物 · · · · · · · · · 8	第19図	SI10 (2)、SI10 出土遺物 · · · · · · ·	
第 7 図			第 20 図	SI11 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第 8 図		出土遺物、SI3(1)・・・・・・ 10	第21図	SI11 (2)、SI11 出土遺物、SI12····	
第 9 図		2)、SI3 出土遺物 · · · · · · · · 11	第 22 図	SI13、SI13 出土遺物、SI14(1)····	
第 10 図		SI4 出土遺物(1)····· 13	第 23 図	SI14 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第11図		出土遺物(2)、SI5(1)····· 14	第24図	SI14 出土遺物 (1)······	
第12図		2)、SI5 出土遺物、SI6(1)··· 15	第 25 図	SI14 出土遺物(2)· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第 13 図	SI6 (2)、SI6 出土遺物(1)・・・・・ 16	第 26 図	SI15、SI15 出土遺物 · · · · · · · · · · ·	33

第 27 図 SI16・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第35図 P21~31・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
表目	目次
第1表 周辺の遺跡・・・・・・・・・・4	第 5 表 遺物観察表 (3) · · · · · · 48
第 2 表 ピット観察表・・・・・・・・ 45	第 6 表 遺物観察表 (4) · · · · · · · · 49
第 3 表 遺物観察表 (1) · · · · · · · · · 46	第 7 表 遺物観察表 (5) · · · · · · · · 50
第 4 表 遺物観察表 (2) · · · · · · · · · 47	
<i>□</i> 古	
与 具	目次
PL.1	SI11 掘方完掘(東から)
1・2 区遠景(東から)	SI12 全景(北から)
3区全景(東から)	SI13 遺物(No.54)出土状況(北東から)
DV 0	SI13 全景(南東から)
PL.2	SI14-SK1 遺物出土状況(東から)
SI1 全景(北西から)	SI14 遺物出土状況(東から)
SI2 全景(北から) SI3 全景(南から)	SI14 カマド全景(北東から)
SI4 掘方完掘(西から)	PL.5
SI5 全景 (東から)	SI14 全景(北東から)
SI6 遺物 (No.20) 出土状況 (北東から)	SI14-SK3 遺物出土状況(南から)
SI6 (2 区 -1T 内) 炭化物検出状況 (東から)	SI15 遺物出土状況(南から)
ore (a la 1114) octability (and 3)	SI15 全景(南東から)
PL.3	SX3 完掘(西から)
SI6(1 区部分)炭化物検出状況(西から)	SX4 検出状況(北東から)
SI6 炭化物検出状況(南西から)	SX4 全景(北西から)
SI6 完掘(垂直)	SX5 完掘(南西から)
SI7 全景(南から)	
SI8 カマド全景(東から)	PL.6
SI8 掘方完掘(東から)	SX7 遺物(No.88)出土状況(北から)
SI10 全景(北東から)	SX7 完掘(北東から)
	SX1 完掘(北東から)
PL.4	SX2 完掘(南東から)
SI11 焼土範囲(北から)	SX6 セクション(北から)

SD2 完掘(東から) PL.11 SD3 完掘(北から) SI8 出土遺物 (2) SK2 完掘(東から) PL.12 PL.7 SI10 出土遺物 SK3 完掘(南から) SI11 出土遺物 SK8 完掘(西から) SI13 出土遺物 SK9 完掘(東から) SI14 出土遺物 (1) P3 完掘(北から) P7 遺物出土状況 (西から) PL.13 P10 セクション(北から) SI14 出土遺物 (2) P14 完掘(南東から) P24・25・30 完掘(東から) PL.14 SI14 出土遺物 (3) PL.8 SI15 出土遺物 SI1 出土遺物 SX4 出土遺物 SI2 出土遺物 SI3 出土遺物 PL.15 SI4 出土遺物 (1) SX7 出土遺物 PL.9 PL.16 SI4 出土遺物 (2) SX6 出土遺物 SI5 出土遺物 SD2 出土遺物 SI6 出土遺物 (1) その他の遺物 PL.10

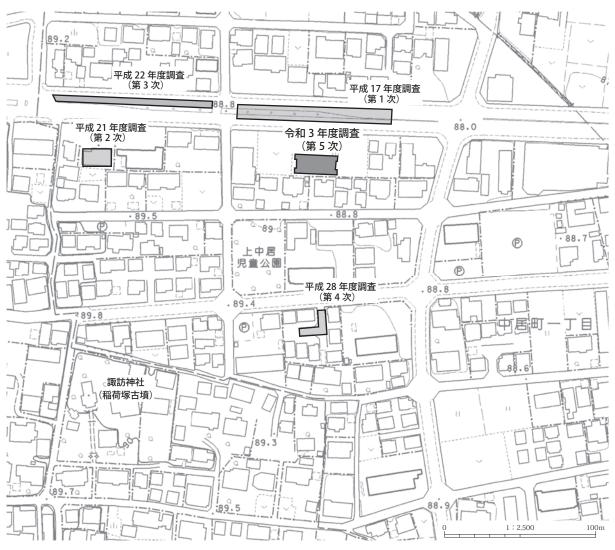
SI6 出土遺物 (2) SI7 出土遺物 SI8 出土遺物 (1)

第 I 章 調査に至る経緯

令和3年6月上旬、事業者である木村隆氏から、高崎市中居町一丁目において計画している集合住宅建設工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課(以下、市教委と略)にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である32H12遺跡・中居32遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝えた。

令和3年7月14日、市教委に第93条第1項の届出、埋蔵文化財確認調査申請書が提出され、令和3年8月19日に確認調査を実施した。その結果、古墳時代等の集落遺構を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、建物工事部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については「中居町一丁目遺跡第5次調査」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和3年10月14日に事業者:木村隆氏・民間調査機関:株式会社シン技術コンサル北関東支店・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。



第1図 調查区位置図

第Ⅱ章 調査の方法と経過

今回の発掘調査は、基礎工事が遺構面にまでおよぶ範囲を調査対象とした。調査区は、 $3.5 \times 29 \text{ mの調査区 } 2 \text{ ケ所と、その間の幅約 } 1 \text{ mのトレンチ状の調査区に分かれる。調査の進捗上、南から } 1 \text{ 区、2 区、3 区と呼称し、さらに } 2 \text{ 区のうち東西方向のトレンチを } 1 \text{ T、南北方向のトレンチを西から } 2 \text{ T <math>\sim 7 \text{ T}$ と呼称した。各調査区の面積は、 $1 \cdot 3 \text{ 区が各々 } 101.5 \text{ m、2 区が } 46 \text{ m 、6} \text{ } 249 \text{ m である。廃土置き場の関係 } から、<math>1 \cdot 2 \text{ 区を先行して調査し、その後 } 1 \cdot 2 \text{ 区を埋め戻し、3 区を調査した。}$

表土掘削は重機によって遺構確認面付近まで掘り下げ、その後ジョレンなどを用いて、人力で包含層掘削・ 遺構検出を行った。当初黒褐色土(V層)上面が遺構確認面であると考えていたが、調査していく中でV層 はほとんど遺存していないことが判明し、高崎泥流層の上位に堆積する漸移層(VI層)上面を遺構確認面と して調査を進めた。竪穴建物跡などの古墳時代の遺構が多数重複して検出され、移植ゴテなどを用いて遺構 掘削を行った。作図作業は、トータルステーションを用いた器械測量と写真測量を併用した。写真撮影は、 35mm モノクロネガ・同カラーリバーサルの2種類のフィルムを使用し、2,020万画素のデジタル一眼レ フカメラを併用した。遺構完掘後、ラジコンへリコプターによる空中写真撮影を行った。調査終了後は高崎 市教育委員会の終了確認検査を受け、器材撤収を行い、現地調査を終了した。

令和3年

11月1・2日 重機による1・2区の表土掘削。仮設トイレ設置。

11月4日 プレハブ搬入。

11月5~26日 1•2区遺構調査。

11月29日 1・2区空中写真撮影。高崎市教育委員会による1・2区の終了確認検査。

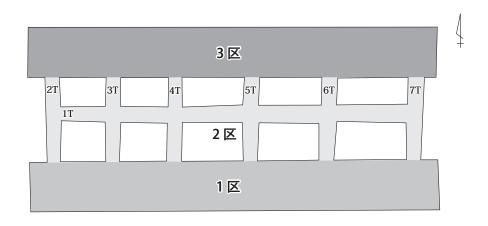
11月30日 1・2区埋め戻し。3区表土掘削開始。

12月1日 3区表土掘削終了。重機搬出。

12月2~20日 3区遺構調査。

12月21日 3区空中写真撮影。高崎市教育委員会による3区の終了確認検査。

12月22~24日 器材搬出。プレハブ・仮設トイレ搬出。現地調査終了。



第2図 調査区名称図

第Ⅲ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

高崎市は榛名山、妙義山をはじめとする群馬県西部の山々を背にした、関東平野の北西端に位置する。高崎市の地形をみると、烏川右岸には八幡台地・観音山丘陵が、左岸には相馬が原扇状地末端の沖積地が、その南方には前橋台地が広がっている。前橋台地は、約2.2万年前の浅間山の噴火に伴う山体崩壊による前橋泥流堆積物によって基盤が構成されている。台地内には、井野川流域に段丘と谷底平野で構成される幅15km ほどの低地部が北西から南東方向に形成されており、この井野川低地帯を境に西側は高崎台地と呼ばれている。高崎台地は前述の前橋泥流堆積物を基盤として、その上位に高崎泥流と呼ばれる泥流が堆積して形成される。

中居町一丁目遺跡は、井野川低地帯の右岸縁辺部に位置しており、周辺は小河川の旧流路によって樹枝状の低湿地と微高地が複雑に入り組んだ地形が形成されている。遺跡の北約 100 mには灌漑用水路が東流しており、これより北側は井野川低地帯である。井野川低地帯は宅地化が急速に進んでいるが、所々に水田が残っており、旧地形を伺い知ることができる。

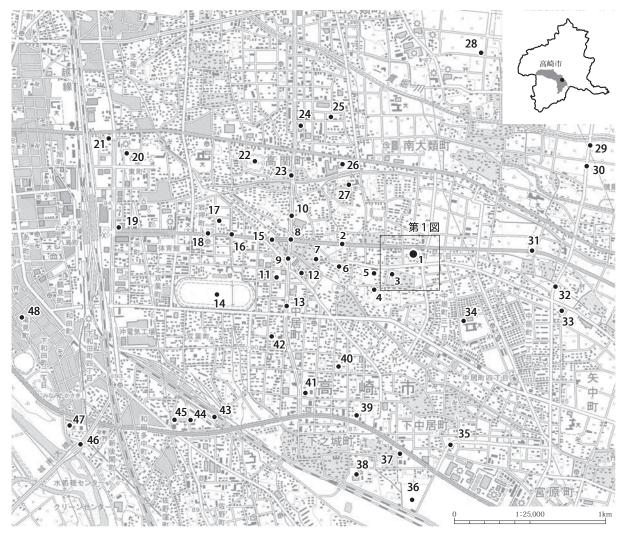
第2節 歷史的環境

本遺跡周辺には、旧石器時代の遺跡はこれまで確認されていない。縄文時代の遺跡は、観音山丘陵・八幡台地・井野川流域に多く分布している。本遺跡周辺では高関村前遺跡(10)、城南小学校校庭遺跡(47)、下中居条里遺跡(35)、中居町一丁目遺跡第3次(第1図)などが調査されており、下中居条里遺跡や中居町一丁目遺跡第3次において中期後半の竪穴建物跡などが確認されているものの、大半の遺跡は中~後期の土器や石器が出土する程度で不明な点が多い。

弥生時代の遺跡は、烏川左岸段丘上には土器型式の標式遺跡である竜見町遺跡(48)や城南小学校校庭 遺跡が、高崎台地上の微高地には高崎競馬場遺跡(14)、高関村前遺跡、高関堰村遺跡(23)などが所在す る。近年高崎競馬場遺跡において大規模な発掘調査が行われ、以前から存在が知られていた中期後半~末の 環濠集落が詳細に調査されているほか、礫床木棺墓などからなる墓域が確認されている。

古墳時代になると、遺跡数は増加する。本遺跡周辺では上中居遺跡群(2)、中居町一丁目遺跡(第1図)、上中居宇名室遺跡 2(5)などで前期~後期の竪穴建物跡などが確認されている。中居宇名室遺跡(4)・中居宇名室遺跡 2などでは後期~終末期の用水路が確認され、上中居辻薬師遺跡 5(7)の古墳時代中期の溝からは勾玉・管玉とともに破鏡が出土している。古墳は市域全体では烏川左岸や粕沢川流域、井野川右岸に多く見られる。本遺跡周辺では、本遺跡南西約 200 mの諏訪神社内に稲荷塚古墳(3)が、やや離れるが東方には前期の柴崎蟹沢古墳(消滅)や柴崎浅間山古墳の存在が知られている。また越後塚古墳(40)は、完全に削平されてしまっているものの、前方後円墳であったことが推定されている。古墳以外では中居町一丁目遺跡や上中居遺跡群、上中居辻薬師 II 遺跡(8)、宿大類村西遺跡(28)などにおいて古墳時代前期の方形周溝墓が、中居町一丁目遺跡第4次(第1図)において前期の前方後方形周溝墓が確認されている。

奈良・平安時代になると条里制の導入によって土地割りの整備が進み、本遺跡周辺の低湿地でも As-B に 覆われた水田跡が多く確認されている。集落遺跡の分布は東方の柴崎地域へと移行するようで、本遺跡周辺 では中居町一丁目遺跡や上中居辻薬師遺跡 4 (6) などで竪穴建物跡が散見されるのみである。



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡

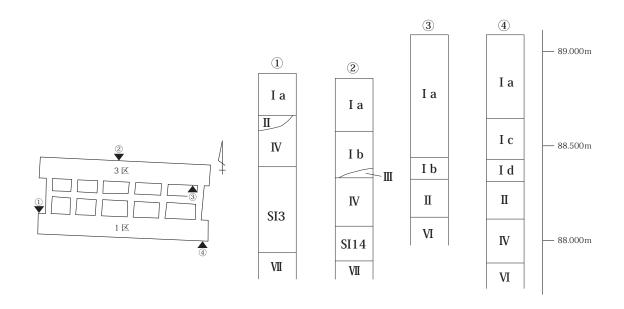
No.	遺跡名	主な時代・遺構
1	中居町一丁目遺跡 5	古墳住居
2	上中居遺跡群	縄文、古墳住居・周溝墓、平安水田など
3	稲荷塚古墳	古墳(円)
4	上中居宇名室遺跡	古墳水路
5	上中居宇名室遺跡 2	古墳住居・井戸・土坑、近世土坑など
6	上中居辻薬師遺跡 4	古墳住居・土坑、平安住居
7	上中居辻薬師遺跡 5	古墳溝、平安溝など
8	上中居辻薬師Ⅱ遺跡	古墳住居・方形周溝墓ほか
9	上中居辻薬師遺跡	平安水田、中世屋敷など
10	高関村前遺跡	縄文、弥生住居、古墳住居など
11	上中居西屋敷遺跡	平安水田
12	上中居西屋敷Ⅱ遺跡	中近世溝・井戸ほか
13	上中居西屋敷Ⅲ遺跡	平安水田、平安以降溝
14	高崎競馬場遺跡	弥生環濠集落・墓、平安水田ほか
15	上中居早道場遺跡	平安~近世溝・土坑・井戸ほか
16	岩押Ⅲ遺跡	平安水田、近世畑
17	岩押Ⅱ遺跡	平安水田
18	岩押 I 遺跡	平安水田
19	栄町 I 遺跡	平安水田、近世溝
20	東町Ⅲ遺跡	弥生溝、古墳・平安・近世水田
21	東町IV遺跡	弥生溝・土坑、平安水田
22	高関高根遺跡	古墳住居、平安住居・水田、中近世溝ほか
23	高関堰村遺跡	弥生溝、中近世溝・掘立
24	高関北沖遺跡	平安水田

No.	遺跡名	主な時代・遺構
25	高関塚田遺跡	平安水田
26	高関東沖Ⅱ遺跡	平安水田
27	岡久保遺跡	平安水田
28	宿大類村西遺跡	縄文、弥生住居、古墳住居・方形周溝墓ほか
29	南大類東沖遺跡	弥生方形周溝墓、平安水田
30	南大類稲荷遺跡	古墳・平安水田、平安住居
31	柴崎南大類遺跡	古墳溝、平安住居・水田
32	柴崎西浦・吹手西遺跡	古墳方形周溝墓、平安住居
33	矢中天王前遺跡	平安水田・溝ほか
34	念仏塚古墳	墳形不明
35	下中居条里遺跡	縄文住居、古墳住居・水田、平安住居・水田ほか
36	下之城村東 I • Ⅱ 遺跡	平安水田
37	下之城条里遺跡	平安水田、中世掘立ほか
38	下之城村西Ⅱ遺跡	平安水田
39	下之城村北Ⅱ遺跡	平安水田
40	越後塚古墳	前方後円墳
41	上中居島薬師遺跡	平安水田
42	上中居荒神 I · II 遺跡	平安水田
43	双葉町 I 遺跡	古墳住居・溝、平安水田、近世溝ほか
44	上佐野桶越遺跡	平安水田ほか
45	和田多中遺跡	平安水田
46	新後閑寺廻遺跡	古墳住居、古代住居
47	城南小学校校庭遺跡	縄文、弥生住居
48	竜見町遺跡	弥生

第IV章 基本層序

本遺跡では、I~VII層の基本土層を確認した。I層は表土で、4層に細分できた。Ia層は表層土で全域に広がり、中央から東側にかけては部分的に礫・コンクリート破片などを多く含む。Ib層は締まりの非常に強い褐灰色土と黒褐色土からなる現代の整地層で、調査区の東側で確認された。Ic層・Id層は1区東端でのみ確認された土層である。調査区中央から東側にかけてI層土の層厚が厚くなっており、近現代に土木工事が複数回行われたと考えられる。ちなみに1区中央で確認された大形の撹乱はIa層直下から掘り込まれており、VII層土を主体とする明黄褐色土で埋められていた。II層はAs-Bを少量含む黒褐色土である。III層はHr-FA 泥流層で、部分的に堆積が確認できた。IV層は白色軽石を微量含む黒褐色土で、遺物包含層である。古墳時代の遺構は、この土層の下で確認された。V層はAs-C 軽石を微量含む黒褐色土で、本来は遺構確認面であったと思われるが、3区のごく一部でしか確認できなかった。VI層は褐灰色砂質土で、今回の調査における遺構確認面である。VII層は高崎泥流層である。

- I a 層 黒褐色土 (10YR3/2) 表層土。
- I b 層 褐灰色土(10YR5/1)と黒褐色土(10YR2/2)からなる整地層。締まり強、粘性弱。
- I c 層 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりやや強、粘性やや弱。
- I d層 にぶい黄橙色砂質土(10YR6/3)
 - Ⅱ層 黒褐色土(10YR3/2)締まりやや強、粘性やや弱。As-Bを少量含む。
 - Ⅲ層 明黄褐色シルト (10YR6/6) Hr-FA 泥流層。
 - IV層 黒褐色土(10YR3/2)締まりやや強、粘性やや弱。白色軽石・褐灰色土ブロックを微量含む。
 - V層 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりやや強、粘性やや弱。As-C 軽石を微量含む。
 - VI層 褐灰色土(10YR4/1)締まりやや弱、粘性弱。黒褐色土・明黄褐色砂質土を多量含む。
 - Ⅷ層 明黄褐色土(10YR7/6) 高崎泥流層。締まりやや強、粘性やや弱。礫を少量含む。



第4回 基本土層柱状図(S=1/20)

第V章 検出された遺構と遺物

本遺跡で検出された遺構は、竪穴建物跡 15 軒、竪穴状遺構 3 基、カマド 1 基、性格不明遺構 3 基、溝 3 条、土坑 8 基、ピット 31 基である。竪穴状遺構は竪穴建物跡の可能性が高いが、検出範囲が狭小であったり、床面施設が確認できなかったりしたため、建物跡と認定しなかったものである。便宜的にではあるが、遺構略称は性格不明遺構と同様に SX を用いた。遺構確認面は、SD1 と SK3 がIV層上面から掘り込まれている以外は全てVI層上面であり、大半の遺構は遺物包含層であるIV層に被覆されている。

第1節 竪穴建物跡

本遺跡で、確認された竪穴建物跡は 15 軒である。SI9 は調査中に SI6 と同一遺構であることが判明したため、欠番となっている。SI16 は、後述のとおり 3 区北壁土層断面でのみ確認された竪穴建物跡である。

SI1 (第6図、PL.2·8)

位 置 1区の西端で検出された。SI3より古く、SI2より新しい。

形状・規模 建物跡の北東壁部分のみが確認され、北西壁は SI3 によって破壊されている。主軸方向は 北東壁を基準に N-43°-W を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。検出長は北東辺が 2.47~mを測る。南壁の土層断面では深さ 0.40~m、掘方の深さ $0.14\sim0.24~\text{m}$ を測る。 周溝は確認されなかった。

柱 穴 確認されなかった。

カマド確認されなかった。

貯蔵 穴 確認されなかった。

遺 物 土師器などが出土し、そのうち高坏・坏・甕を図示した。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

SI2 (第7·8 図、PL.2·8)

位 置 1区の西側で検出された。SII・3より古い。遺構確認段階で、床面が検出された状態であった。

形状・規模 建物跡の東壁から南東隅が確認された。主軸方向は東壁を基準に N-15°-W を示し、平面 形は方形ないし長方形と推測される。検出長は東辺が $3.20\,\mathrm{m}$ 、南辺が $0.72\,\mathrm{m}$ を測る。北壁の土層断面では深さ $0.10\,\mathrm{m}$ 、掘方の深さ $0.12\sim0.16\,\mathrm{m}$ を測る。想定される建物範囲 の中央付近で硬化面が検出されたほか、北壁断面の $1\,\mathrm{e}$ 層がかなり硬化しており、床の貼り 替えが行われた可能性がある。

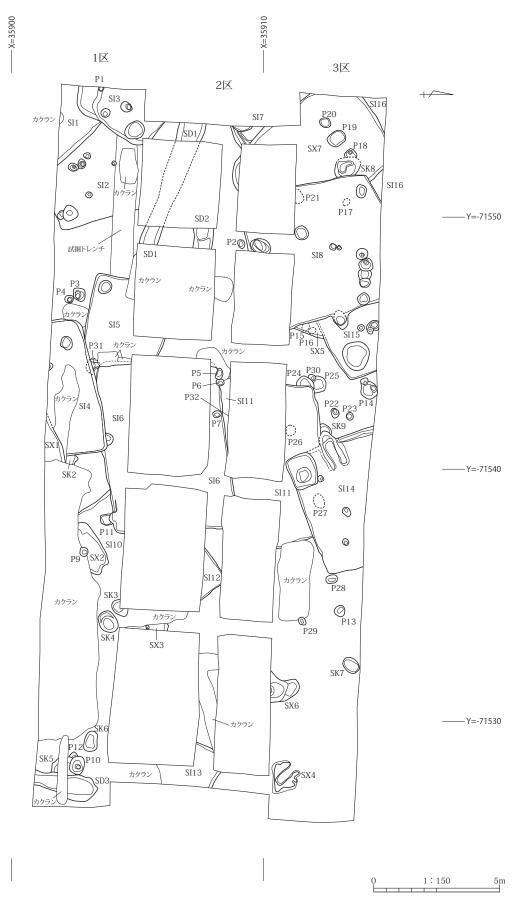
柱 穴 7基確認された。 $P1 \sim 5$ を4層中、 $P6 \cdot 7$ を4層下で確認したが、本来は全て床面上の施設と考えられる。位置・規模から、P1は主柱穴の可能性がある。

カマド確認されなかった。

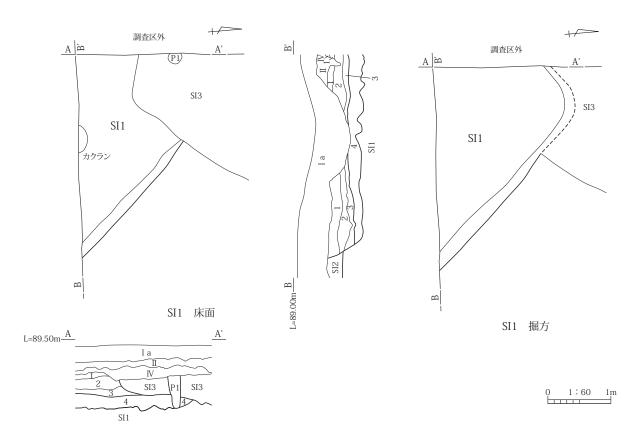
貯蔵穴 確認されなかった。

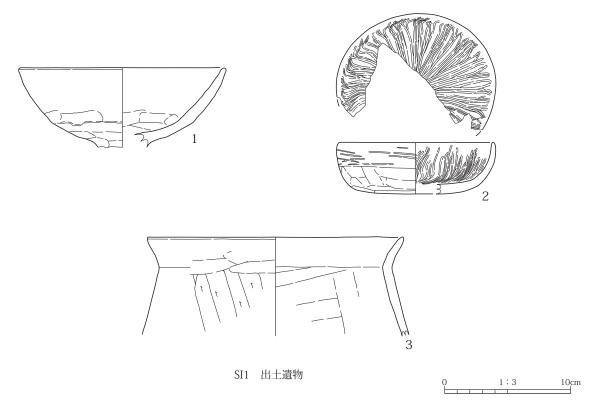
遺物
土師器などが出土し、そのうち甕を図示した。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

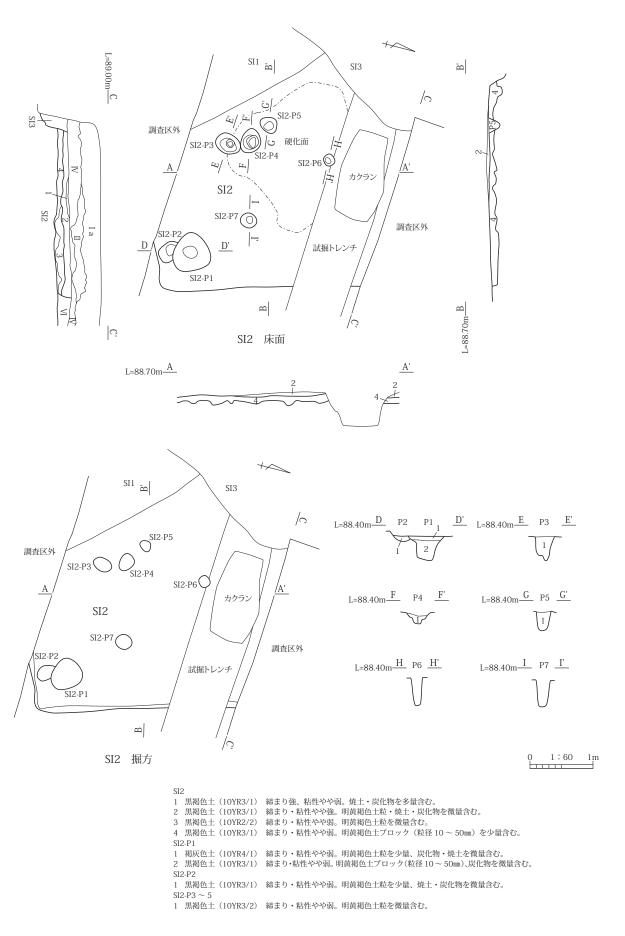


第5図 遺構全体図

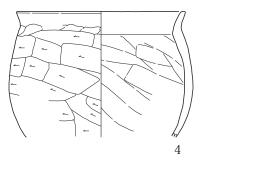




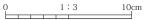
第6図 SI1、SI出土遺物

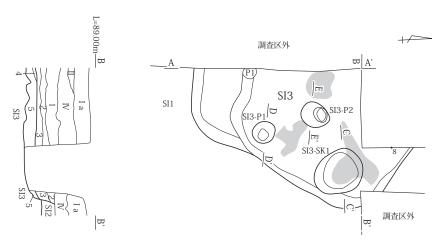


第7図 SI2

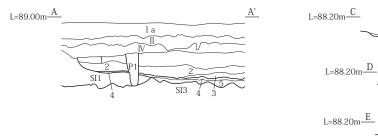


SI2 出土遺物





SI3 床面



0 1:60

SK1

_C'

1 黒褐色土 (10YR2/2) 2 黒褐色土 (10YR3/2) 3 黒褐色土 (10YR2/2) 4 黒褐色土 (10YR2/2)

締まり・粘性やや弱。明黄褐色土粒を少量、焼土微量含む。 締まり・粘性やや弱。明黄褐色土ブロック(粒径 $10\sim50\mathrm{mm}$)を多量、焼土・炭化物を微量含む。

締まり・粘性やや弱。明黄褐色土粒を微量含む。

締まりやや強、粘性やや弱。焼土・炭化物を少量含む。 5 明黄褐色土(10YR6/6) SI3-SK1 締まりやや強、粘性やや弱。ブロック主体。黒褐色土を多量含む。

1 橙色土 (5YR6/8) 締まりやや強、粘性弱。焼土主体。下層に炭化物を微量含む。

黒褐色土(10YR2/2) 締まり・粘性やや弱。明黄褐色土粒を微量含む。

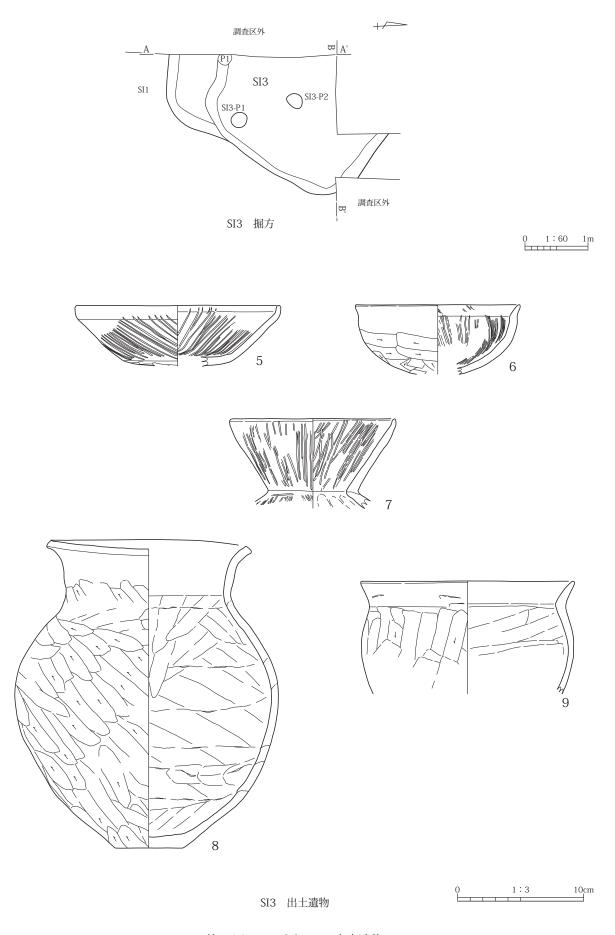
SI3-P1

締まりやや弱、粘性やや強。明黄褐色土粒を微量含む。 締まり・粘性やや弱。明黄褐色土粒を少量含む。 1 黒色土(10YR2/1) 2 黒褐色土(10YR3/1)

SI3-P2

1 黒褐色土 (10YR3/1) 締まりやや強、粘性やや弱。灰黄褐色土・焼土を微量含む。 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まりやや強、粘性やや弱。黒褐色土を少量含む。

第8図 SI2 出土遺物、SI3 (1)



第9図 SI3 (2)、SI3 出土遺物

SI3 (第8·9 図、PL.2·8)

位 置 1区の西端で検出され、一部が2区-2Tにかかる。P1より古く、SI1・2より新しい。

形状・規模 建物跡の東側が確認された。主軸方向は東壁を基準に N-32°-E を示し、平面形は隅丸方形 ないし隅丸長方形と推測される。検出長は北辺が $1.30\,\mathrm{m}$ 、東辺が $3.00\,\mathrm{m}$ 、南辺が $0.86\,\mathrm{m}$ を測り、確認面から $0.23\sim0.40\,\mathrm{m}$ 掘り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは $0.02\sim0.16\,\mathrm{m}$ ほどである。周溝は確認されなかった。床面は南側が一段高くなっており、床面 が低くなっている部分では焼土・炭化物が多く検出されており、焼失建物と考えられる。

柱 穴 2基確認された。

カマド確認されなかった。

貯蔵 穴 確認されなかった。北東隅でSK1が確認されたが、浅い掘り込みであったため、貯蔵穴で はなないと考えられる。

遺 物 土師器などが出土し、そのうち高坏・坏・壺・甕を図示した。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

SI4 (第 10 · 11 図、PL.2 · 8 · 9)

位 置 1区の中央で検出され、南半は調査区外に位置する。SX1より古く、SI5・6、SK2より新しい。

形状・規模 建物跡の北半が確認された。主軸方向は東壁を基準に N-6°-W を示し、平面形はやや歪な 隅丸方形ないし隅丸長方形と推測される。検出長は北辺が $5.24~\mathrm{m}$ 、東辺が $1.63~\mathrm{m}$ 、西辺が $0.95~\mathrm{m}$ を測り、確認面から $0.14~\mathrm{m}$ 掘り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは $0.07\sim0.18~\mathrm{m}$ ほどである。周溝は確認されなかった。

柱 穴 2基確認されたが、いずれも浅いため、柱穴であるか不明である。

カマド確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺 物 土師器などが出土し、そのうち高坏・甕を図示した。北壁近くの床面上では、10・11 などの高坏がまとまって出土した。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

SI5 (第 11 · 12 図、PL.2 · 9)

位 置 1区の中央で検出され、北西部は調査区外に位置する。SI4より古い。東辺を撹乱によって破壊されているため、SI6との新旧関係は不明である。

形状・規模 主軸方向は西壁を基準に N-9°-E を示し、平面形は台形に近い方形である。検出長は北辺が $0.76\,\mathrm{m}$ 、東辺が $0.30\,\mathrm{m}$ 、南辺が $2.54\,\mathrm{m}$ 、西辺が $1.19\,\mathrm{m}$ を測り、確認面から $0.17\,\mathrm{m}$ 掘り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは $0.06\sim0.14\,\mathrm{m}$ ほどである。周溝は確認されなかった。中央付近で焼土・炭化物がまとまって検出されたが、床面から $8\,\mathrm{cm}$ ほど上に位置するため、焼失建物の可能性は低いと考える。

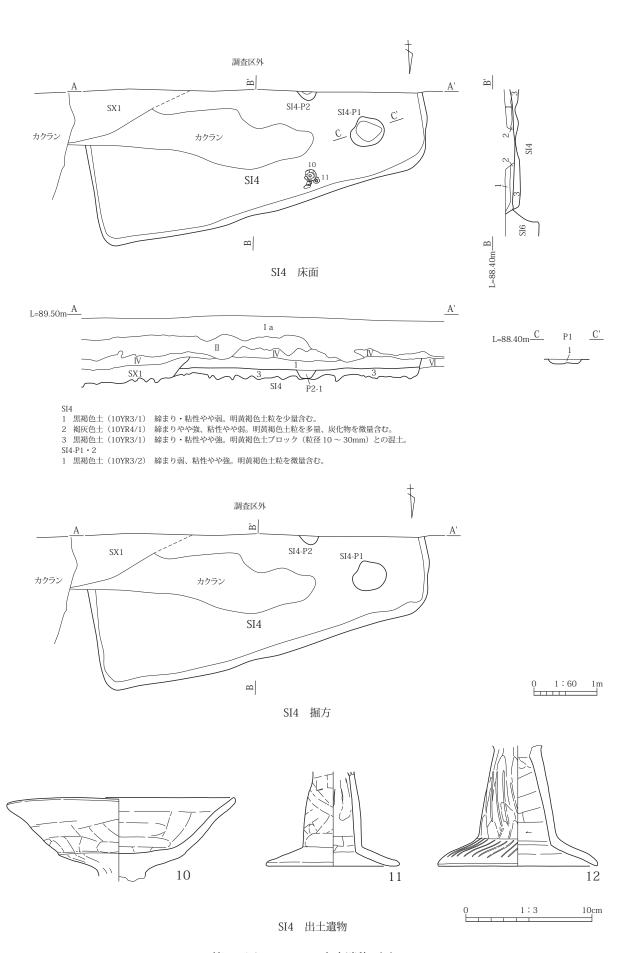
柱 穴 南西隅に P1 が検出されたが、浅いため、柱穴であるか不明である。

カマド確認されなかった。

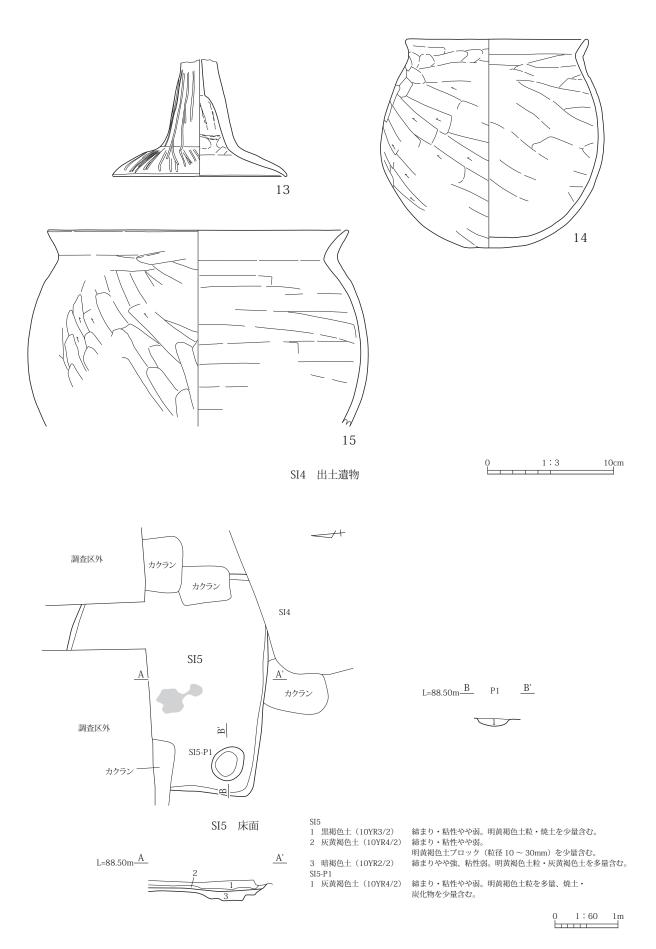
貯蔵穴 確認されなかった。

遺 物 土師器などが出土し、そのうちS字状口縁台付甕を図示した。

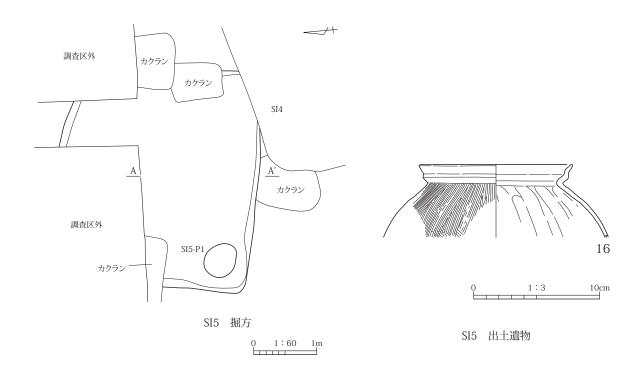
時 期 遺構の時期は、出土遺物が少なく確実なことは言えないが、古墳時代前期の可能性が高い。

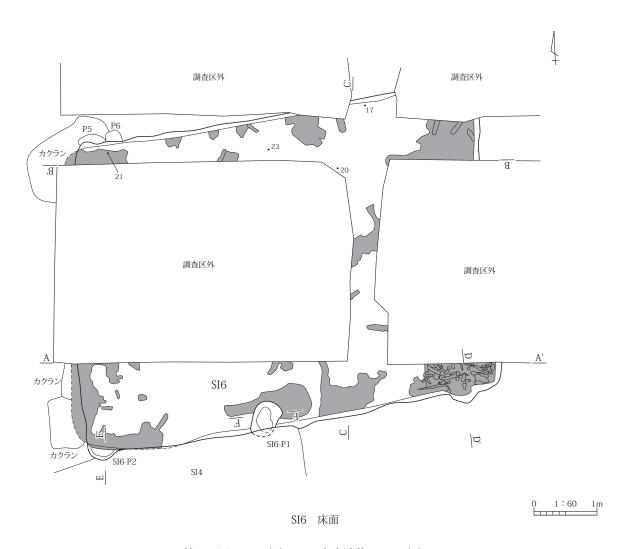


第 10 図 SI4、SI4 出土遺物 (1)

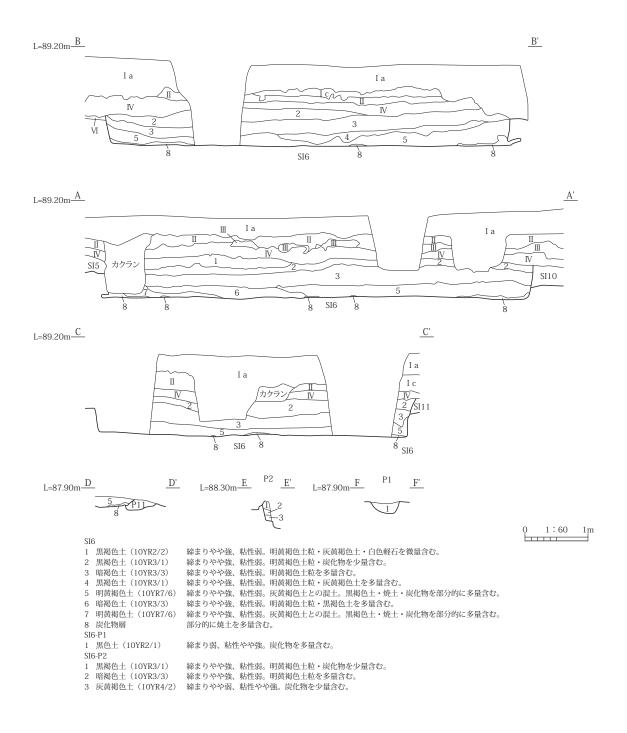


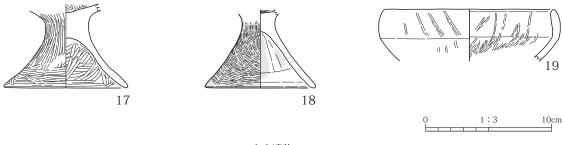
第11図 SI4出土遺物(2)、SI5(1)





第 12 図 SI5 (2)、SI5 出土遺物、SI6 (1)





SI6 出土遺物

第13図 SI6(2)、SI6出土遺物(1)

SI6 (第 12 ~ 14 図、PL.2 · 3 · 9 · 10)

位 置 1区の中央から 2区中央にかけて検出され、遺構中央の大半が調査区外に位置する。SI4、 $P5 \sim 7$ より古く、SI10・11、 $P11 \cdot 31$ より新しい。SI5 との新旧関係は不明である。

形状・規模 主軸方向は西壁を基準に N-2°-W を示し、平面形は東西に長い長方形である。遺構の規模は西辺が 4.86 m、南辺が 6.61 mを測り、確認面から 0.62 m掘り下げたところで床面が検出された。高崎泥流層 (MI層) を平らに掘り下げた直床であり、周溝は確認されなかった。床面直上で大量の炭化材と焼土が検出され、その上位に屋根に葺いていたと思われる明黄褐色土など (4~7層) が乗っており、焼失建物と考えられる。

柱 穴 南壁沿いに P1 が検出されたが、壁外に向かって斜めに掘り込まれていることから、柱穴ではないと考えられる。南西隅の張り出し部分を P2 としたが、底面は床面から 10cm ほど高い位置にあり、柱穴ではないと考えられる。別遺構の可能性も残るが、覆土は竪穴本体と近似している。当初 P2 南側のオーバーハング部分も含めて P2 と考えていたが、本報告では別遺構 (P31) とした。

壁 面 壁は急角度に掘り込まれており、真っ赤に被熱していた。南壁西側の下端および西壁下端 がオーバーハングしており、炭化材が充填されていた。特に西壁は最大で 18cm ほどオー バーハングしており、炭化材・焼土が深く入り込んでいた。

カマド確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺 物 17 が床面上から、18 が P2 から出土している以外は崩落した屋根材の上から出土しており、 建物が焼失した跡の窪地に投げ込まれた遺物と考えられる。遺物の年代幅は、古墳時代前 ~中期と幅広い。この中には、SI8 覆土出土遺物(39)や SI11 掘方出土遺物(49)と接 合した土師器片も含まれている。20 の台付甕は、S字状口縁台付甕の系譜を引く土器であり、 遺構覆土の最上層から出土している(PL.2)。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴と SI11 との新旧関係から、古墳時代中期と考えられる。

SI7 (第 15 図、PL.3 · 10)

位 置 2区-2T北側で検出され、遺構の大半は調査区外に位置する。また、3区南西隅もSI7である可能性が高い。SX7より古い。

形状・規模 遺構の大半が調査区外に位置するだけでなく、SX7 に大きく破壊されているため、遺構の 形状は不明である。検出長は南辺が 1.03~mを測り、確認面から 0.24~m掘り下げたところ で床面が検出され、掘方の深さは $0.06\sim0.14~\text{m}$ ほどである。南壁から 10~cm ほど内側に 溝が確認されたが、SK1 にぶつかるため、周溝ではない可能性が高い。

柱 穴 確認されなかった。

カマド確認されなかった。

貯蔵 穴 検出範囲の南西隅で SK1 が検出されたが、貯蔵穴であるかは不明である。

遺 物 土師器などが出土し、そのうち台付甕を図示した。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴とSX7との新旧関係から、古墳時代前期と考えられる。

SI8 (第 15 ~ 18 図、PL.3 · 10 · 11)

位 置 2区-3T北側から3区にかけて検出され、遺構の北東隅および南側の大半が調査区外に位

置する。SI15、SX5・7、SK8、P17・21 より新しい。

形状・規模 主軸方向は東壁を基準に N-16°-W を示し、平面形はおおむね方形である。検出長は北辺が 1.31 m、東辺が 3.70 m、南辺が 0.76 m、西辺が 2.77 mを測り、確認面から 0.22 m 掘り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは $0.06 \sim 0.18 \text{ m}$ ほどである。周溝は確認されなかった。東壁中央付近に張り出しがあり、SK2 が確認された。

柱 穴 掘方調査時に $P1 \sim 9$ が確認されたが、確実に主柱穴といえるものはない。 $P3 \sim 6$ は連続して掘削されており、重複する別遺構の可能性もある。

カマド 西壁の調査区際で焼土を多量に含む明黄褐色土が検出されていることから、西壁南側に位置すると考えられる。建物廃絶時に大きく破壊されており、明確な袖は確認できていない。 つぶれたカマド天井部の内側(4層)は赤く被熱しているが、明確な火床面は確認できなかった。推定火床面で逆位に置かれた高坏(33)が1点出土しており、支脚として使用されたものと考えられる。煙道は調査区外に位置すると思われる。

貯蔵 穴 南壁際で SK1 が検出されたが、規模が小さいため、貯蔵穴とは考え難い。覆土には焼土・ 炭化物が多く含まれており、出土遺物は少ない。

遺 物 土師器などが出土し、そのうち高坏・坏・甑・甕、剣形の石製模造品、砥石、敲石を図示した。 32 はカマド脇の床面上から、34・43 は建物中央の床面から 10~15cm 程上位で出土した。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

SI10 (第 18・19 図、PL.3・12)

位 置 1区の中央で検出され、一部が2区-5Tにかかる。SI6、SX2、SK3、P9より古い。SK4と 重複するが、新旧関係は不明である。西側の掘り込みは確認できたが、東側の掘り込みが 確認できず遺構の範囲は不明である。壁面断面の観察から、SK4付近が遺構の東限と推測 される。

形状・規模 主軸方向は南西壁を基準に N-35°-W を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。 検出長は南西辺が 1.58 mを測り、確認面から 0.22 m掘り下げたところで床面が検出され、 掘方の深さは $0.08 \sim 0.18$ mほどである。 SI12 と同一遺構の可能性も考えたが、床面の標高が異なるため別遺構とした。 重複する SI6 とは覆土が酷似しており、検出当初は本遺構の方が新しいと考えたが、出土遺物などから SI6 より古いと判断した。 周溝は確認されなかった。

柱 穴 確認されなかった。

カマド確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

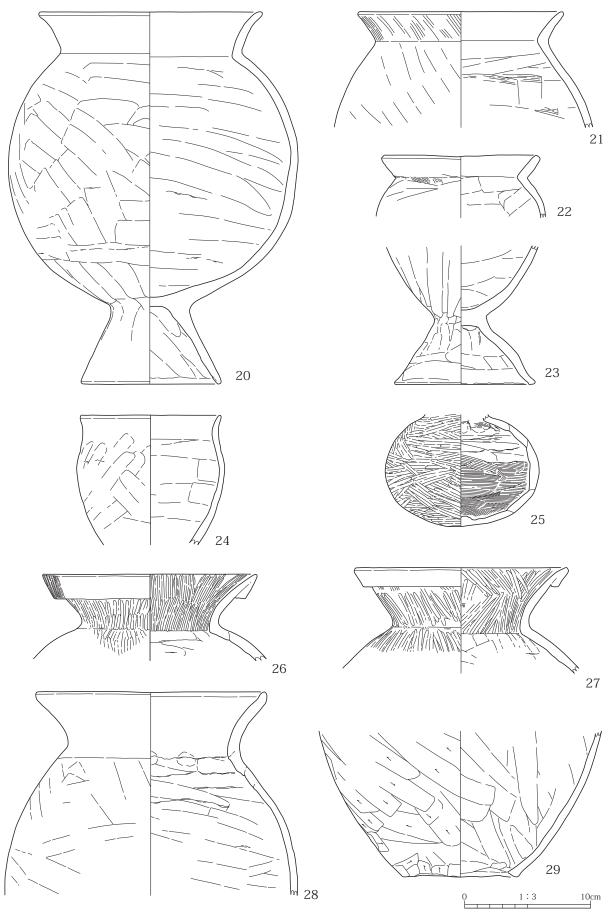
遺 物 土師器などが出土し、そのうち壺・甕を図示した。47・48 は弥生土器の系譜を引くもの である。48 は無節縄文や赤彩が施される特徴的な遺物である。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代前期初頭と考えられる。

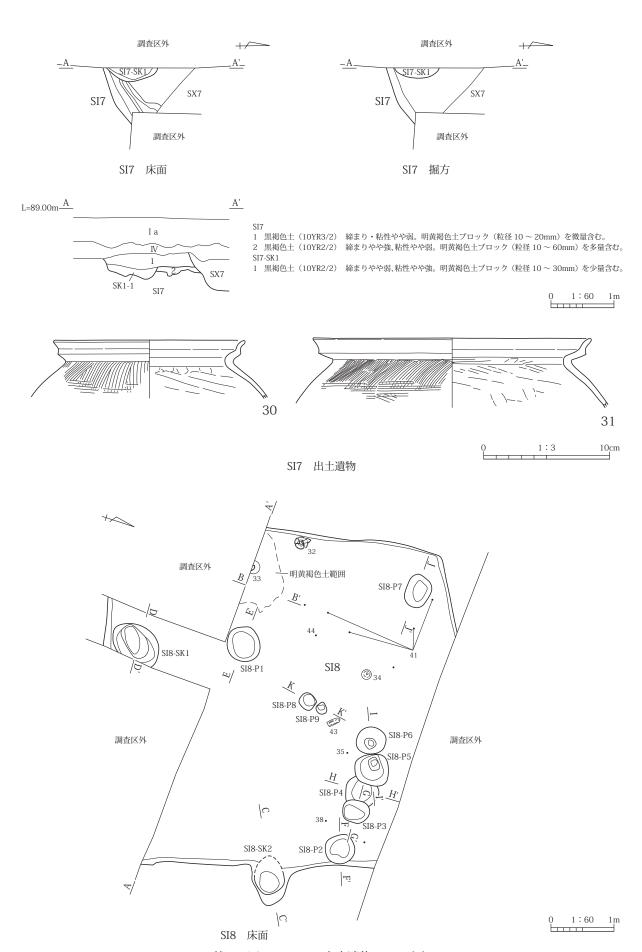
SI11 (第 20 · 21 図、PL.4 · 12)

位 置 2区から3区にかけて検出され、遺構の中央は調査区外に位置する。SI6・14、P5・6・32より古く、P24~26より新しい。

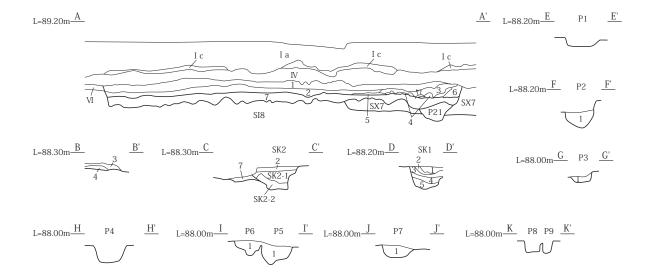
形状・規模 主軸方向は北壁を基準に N-96°-W を示し、平面形は東西に長い長方形である。遺構の規



第 14 図 SI6 出土遺物 (2)



第 15 図 SI7、SI7 出土遺物、SI8 (1)



1 黒褐色土(10YR3/1)

2 黒褐色土 (10YR3/2) 3 明黄褐色土 (10YR7/6)

4 焼土層

5 黒色土 (10YR2/1)

6 褐灰色土 (10YR5/1)

多量含む。 締まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土ブロック 7 黒褐色土 (10YR3/1) (粒径 10~100mm) を多量含む。

SI8-SK1

1 黒褐色土(10YR2/2)

2. 焼土層

4 灰黄褐色土(10YR4/2) 5 明黄褐色土(2.5Y7/6)

3 黒褐色土 (10YR3/2)

締まり弱、粘性やや強。明黄褐色土粒を微量含む。 締まりやや弱、粘性弱。 締まり・粘性やや弱。明黄褐色土粒・焼土・炭化物を

多量含む。

締まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒を多量含む。 締まり・粘性やや弱。明黄褐色土粒を少量含む。 締まりやや強、粘性やや弱。焼土・黒褐色土を少量含む。 締まりやや強、粘性やや弱。黒褐色土を少量含む。

締まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒・黒褐色土を

締まり強、粘性やや弱。焼土を少量含む。

締まりやや弱、粘性やや強。明黄褐色土粒を少量含む。 締まり・粘性やや弱。黒褐色土との混土。

1 黒褐色土(10YR3/1)

2 明黄褐色土(10Y7/6) $SI8-P1 \sim 4$

1 黒褐色土 (10YR2/2) $\text{SI8-P5} \sim 7$

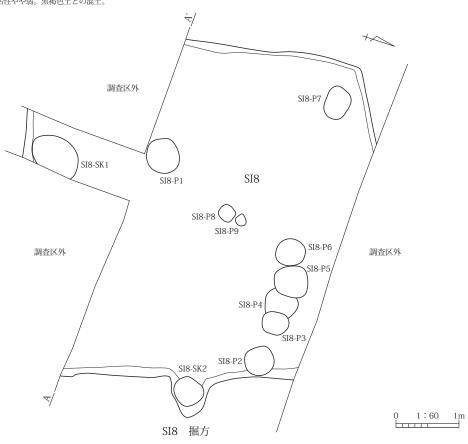
1 黒褐色土(10YR2/2)

締まり・粘性やや弱。灰黄褐色土を多量含む。

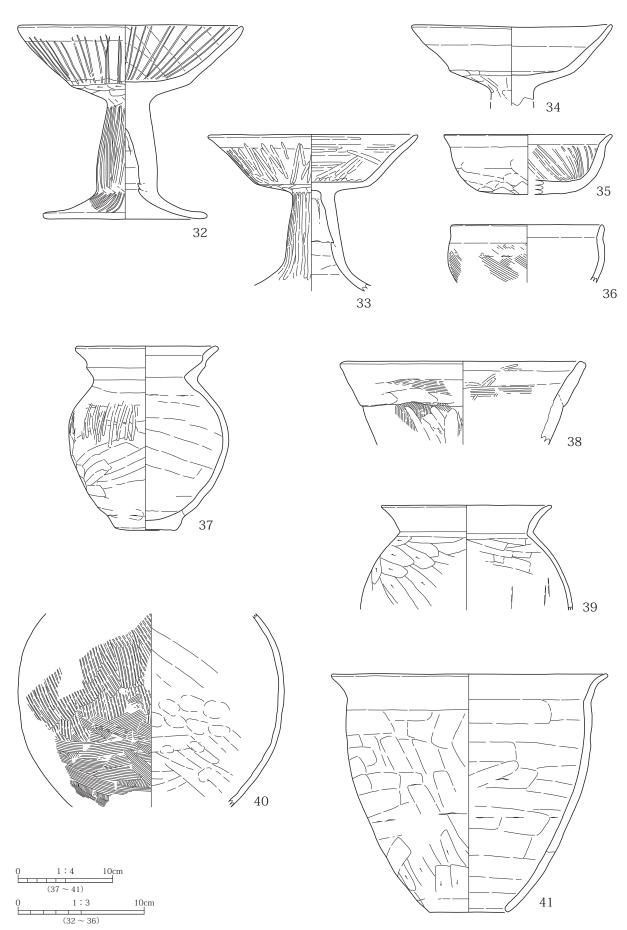
締まりやや強、粘性やや弱。黒褐色土・焼土との混土。

締まりやや弱、粘性やや強。明黄褐色土粒を微量含む。

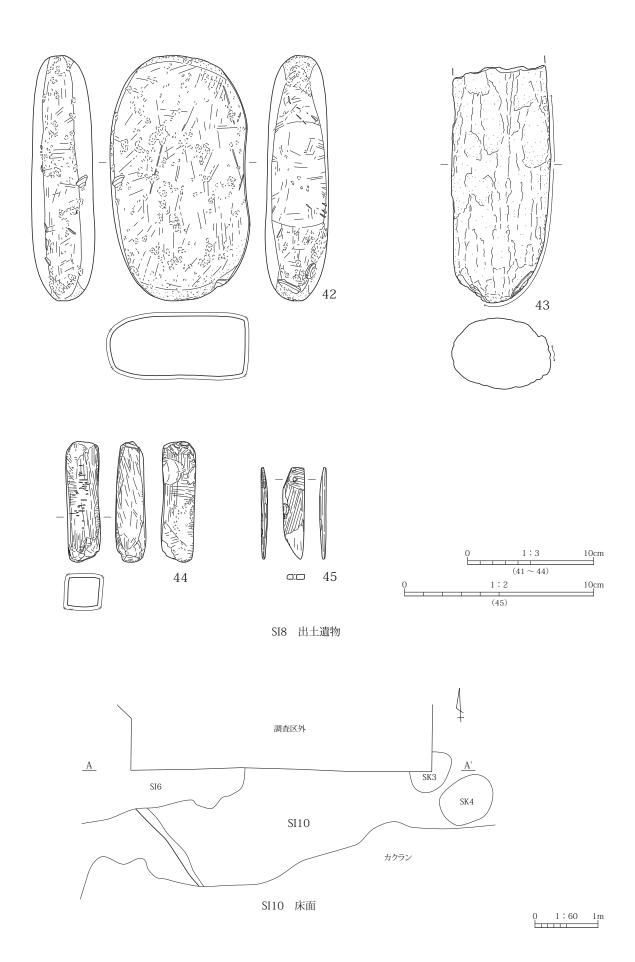
締まりやや弱、粘性やや強。明黄褐色土粒を少量含む。



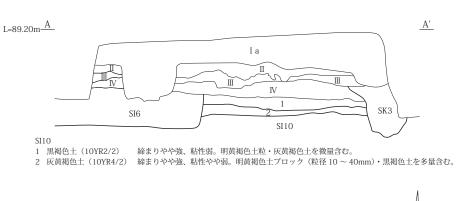
第16図 SI8(2)

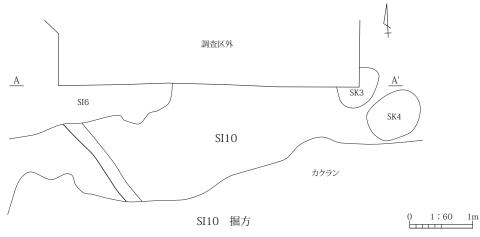


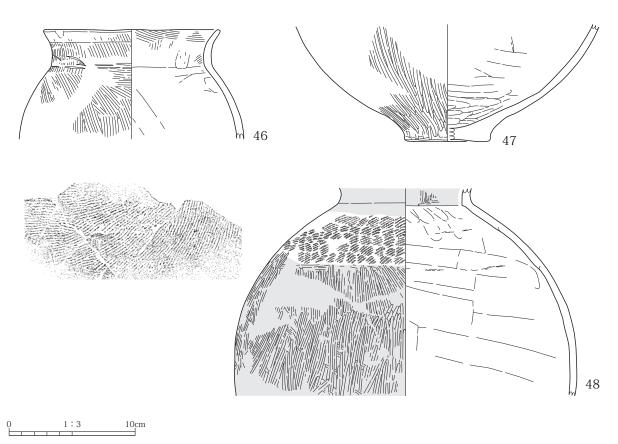
第 17 図 SI8 出土遺物 (1)



第 18 図 SI8 出土遺物 (2)、SI10 (1)

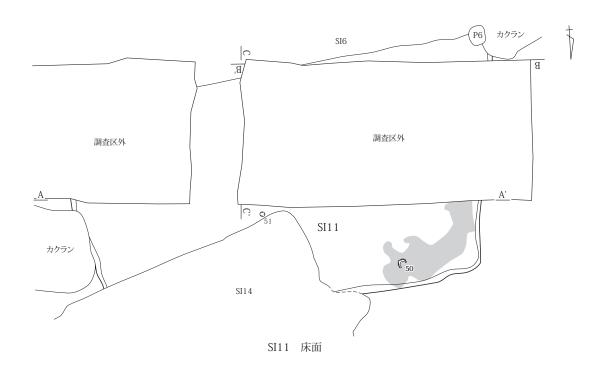


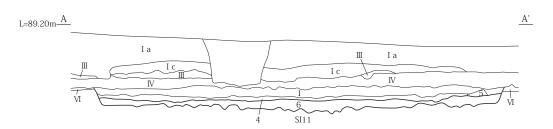


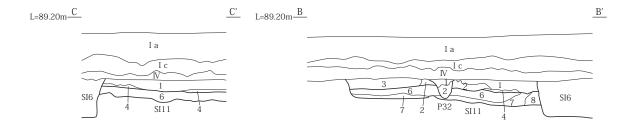


SI10 出土遺物

第19図 SI10 (2)、SI10 出土遺物







SI11

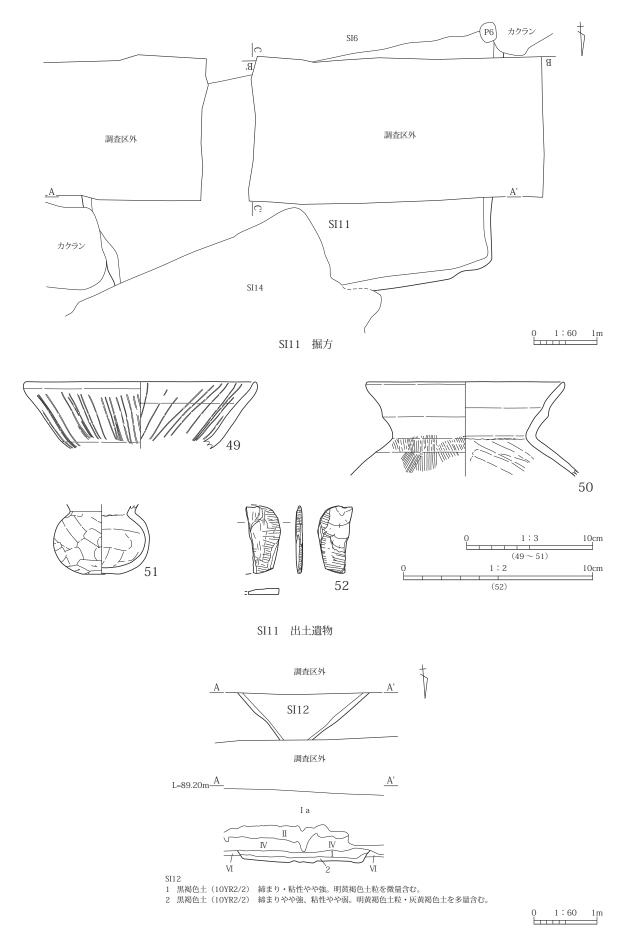
1 黒褐色土 (10YR3/1) 2 明黄褐色土 (10YR7/6) 3 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりやや強、粘性弱。明黄褐色土粒・灰黄褐色土を微量含む。 締まりやや強、粘性やや弱。焼土との混土。黒褐色土を少量含む。 締まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒・灰黄褐色土を微量含む。

4 黒色土(10YR2/1)

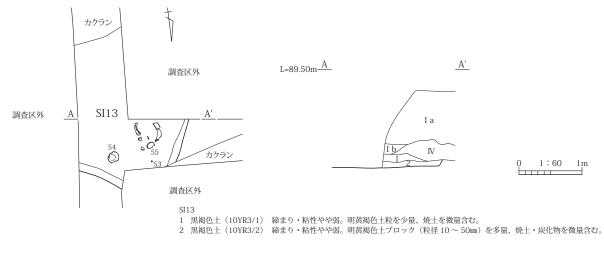
締まりやや強、桁圧やや弱。明貞間色工程、灰貞陶色工を版量さむ。 締まり強、粘性やや弱。焼土を少量含む。 締まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒・灰黄褐色土を多量含む。 締まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒・灰黄褐色土を多量含む。 締まりやや強、粘性弱。灰黄褐色土を多量含む。 締まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒・灰黄褐色土を少量含む。 4 無色上(101R2/1) 5 焼土層 6 黒褐色土(10YR3/2) 7 明黄褐色土(10YR7/6) 8 黒褐色土(10YR3/2)

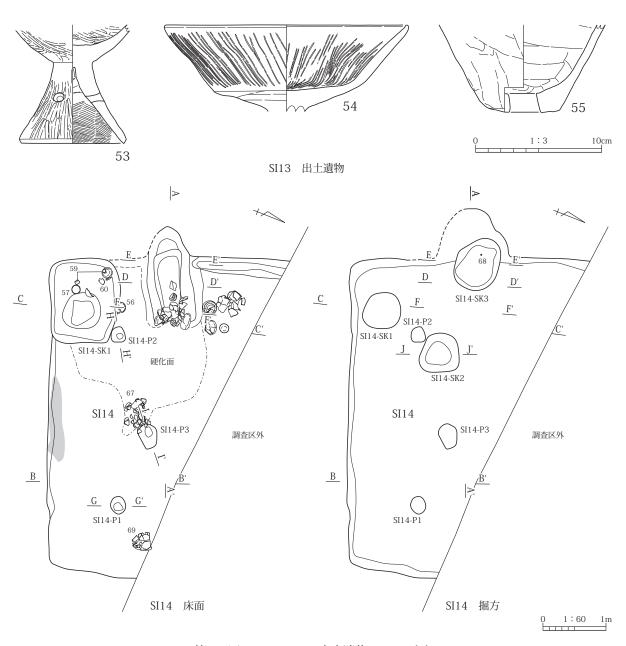
1 黒褐色土(10YR3/1) 締まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒・炭化物を多量含む。 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 締まり・粘性やや弱。明黄褐色土ブロック(粒径 10~ 20mm)を多量、焼土・炭化物を少量含む。

1:60 1m



第 21 図 SI11 (2)、SI11 出土遺物、SI12





第 22 図 SI13、SI13 出土遺物、SI14 (1)

模は、東西が $6.18 \, \mathrm{m}$ 、南北は $\mathrm{SI}12 \, \mathrm{d}$ 近の北壁断面で本遺構が検出されていないため、最大でも $4 \, \mathrm{m}$ 程度と推測される。確認面から $0.22 \, \mathrm{m}$ 掘り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは $0.06 \sim 0.22 \, \mathrm{m}$ ほどである。周溝は確認されなかった。遺構の北西隅を中心に、焼土がまとまって検出されており、焼失建物の可能性がある。

柱 穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかったが、B-B'断面において焼土を多く含む明黄褐色土層(2層)が確認されており、カマドが存在したとすると西壁に位置していた可能性がある。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺 物 土師器などが出土し、そのうち高坏・壺、石製模造品を図示した。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴と SI6 との新旧関係から、古墳時代中期初頭と考えられる。

SI12 (第 21 図、PL.4)

位 置 2区-1Tで検出され、遺構の大半は調査区外に位置する。

形状・規模 主軸方向は北東壁を基準に N-38°-W を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。 検出長は北西辺が 1.16 m、北東辺が 0.99 mを測り、確認面から、0.18 m掘り下げたと ころで床面が検出さた。床面は硬化しておらず、周溝は確認されなかった。遺構の全容は 不明であるが、SX3 と重複していないことから、比較的小形の竪穴建物跡と考えられる。 SI10 とは床面の標高が異なるため別遺構とした。

柱 穴 確認されなかった。

カマド確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物
土師器の小片が出土したのみで、図示できるものはなかった。

時 期 遺構の時期は出土遺物が少なく、重複遺構もないことから不明である。

SI13 (第 22 図、PL.4 · 12)

位 置 2区-1T 東端で検出され、遺構の大半は調査区外に位置する。南側が撹乱によって削平されているため、遺構の全容は不明である。

形状・規模 主軸方向は西壁を基準に N-26°-E を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。検出 長は西辺が 0.79 m、北辺が 0.81 mを測り、確認面から 0.22 m掘り下げたところで床面 が検出さた。床面は硬化しておらず、周溝は確認されなかった。

柱
穴
確認されなかった。

カマド確認されなかった。

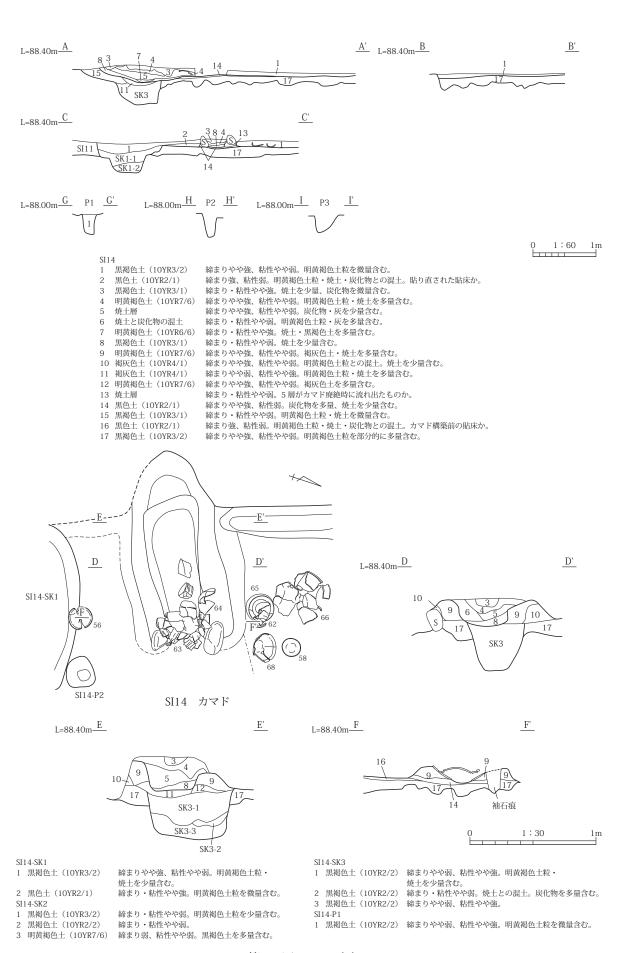
貯蔵穴 確認されなかった。

遺 物 土師器などが出土し、そのうち高坏・甑を図示した。54・55 は覆土上位から、甕の口縁 部片などと一緒にまとまって出土した。53 は床面から数 cm 上から出土した。掲載外遺物 も含めて、前期と中期の遺物が混在して出土した。

時期 遺構の時期は、出土遺物の年代幅があるが、古墳時代中期の可能性が高い。

SI14 (第 22 \sim 25 図、PL.4 \cdot 5 \cdot 12 \sim 14)

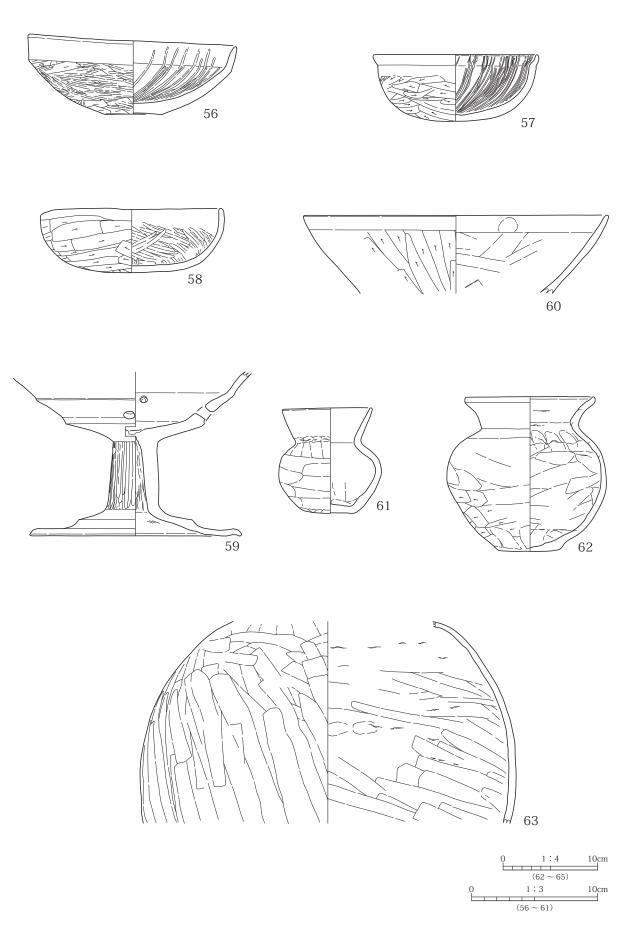
位 置 3区の中央で検出され、北部は調査区外に位置する。SI11、SK9、P27より新しい。



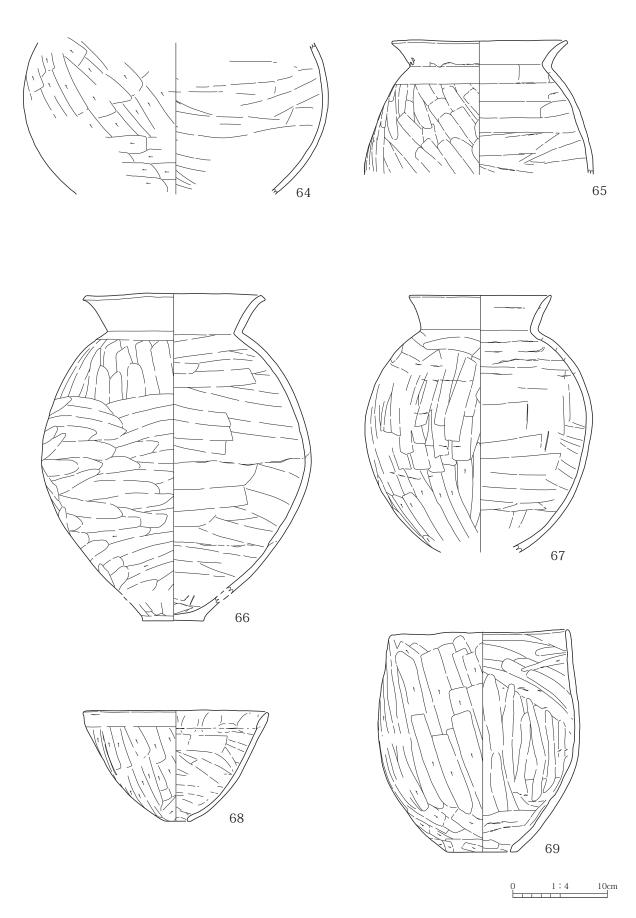
- 形状・規模 主軸方向はカマドを基準に N-117°-W を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。 検出長は東辺が $1.39 \,\mathrm{m}$ 、南辺が $4.62 \,\mathrm{m}$ 、西辺が $3.72 \,\mathrm{m}$ を測り、確認面から $0.10 \,\mathrm{m}$ 掘り 下げたところで床面が検出され、掘方の深さは $0.07 \sim 0.17 \,\mathrm{m}$ ほどである。カマドの右側 で溝状の窪みが確認されたが、南・東壁では確認されていない。南壁際中央付近で焼土が 溝状に検出されたが、局所的な分布なので焼失建物の可能性は低いと思われる。
- 柱 穴 掘方調査時に $P1 \sim 3$ が確認され、いずれも床面上の柱穴と考えられる。 $P1 \cdot 2$ は柱穴の 規模は小さいものの、位置関係から主柱穴と思われる。
- カマド 西壁中央付近で、つぶれた状態で検出された。黄褐色ローム土で袖・天井部が構築され、 天井部内面はかなり被熱している。燃焼部は壁内に位置し、奥行き1.13 m、幅0.23~0.34 m である。煙道はカマドの長さに比して短く、長さ0.42 m、幅0.60 mである。焚き口部両 側に礫が埋設されており、その内側には大形の壺胴部(64)が懸架材として設置されてい たと考えられる。65 も同じカマド焚き口から出土しており、カマド内面に張り付けられて いた可能性がある。焚き口から0.44 mほど奥に、四角柱状に整形された礫が支脚として設置されている。
- 貼 床 カマド前方から左側にかけて硬化面(14 層)が確認され、カマドの袖下まで達している。 カマド左側は 14 層の下に 16 層が貼られており、特別床を硬く構築している。また、カマ ド左側は床面よりも一段高く硬化面(2 層)が構築されており、貯蔵穴周辺が硬く締め固 められていたようである。
- 貯蔵 穴 カマド左側の南西隅で確認された (SK1)。長軸 1.33 m、短軸 1.08 m、深さ 0.13 mほどの隅丸長方形の掘り込みの中央に、直径 0.56 m、深さ 0.27 mの土坑が掘られている。貯蔵穴の遺物としては、円形土坑部の縁で 57 が出土した他は、土坑検出面で多く出土した。貯蔵穴以外に、掘方調査時に SK2・3 が確認された。SK2 はカマド直下で確認され、掘方埋土を掘り込んでいる。
- 遺 物 土師器などが出土し、そのうち坏・器台・鉢・壺・甕・有孔鉢・甑を図示した。貯蔵穴 (SK1) の確認面付近および、カマド右側から多くの土器が出土した。59 は坏部に焼成後穿孔が施される器台であるが、3ヶ所目の穿孔途中で作業を止めてしまっている。65 は甕上半部の破片を台として使用しており、上には62 が設置されていたと考えられる。
- 時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

SI15 (第 26 図、PL.5 · 14)

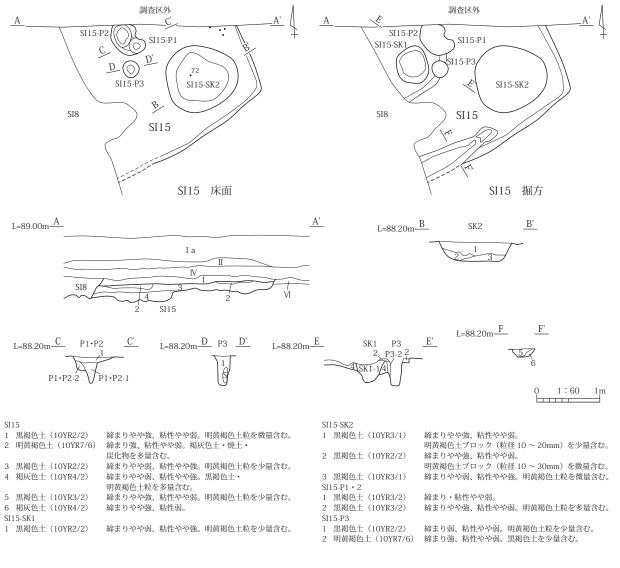
- 位 置 3区の中央で検出され、西側は SI8 によって破壊される。北部は調査区外に位置するため、 遺構の全容は不明である。SI8 より古く、SX5 より新しい。
- 形状・規模 主軸方向は東壁を基準に N-17°-W を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。検 出長は東辺が $1.08 \, \mathrm{m}$ 、南辺が $2.71 \, \mathrm{m}$ を測り、確認面から $0.13 \, \mathrm{m}$ 掘り下げたところで床 面が検出され、掘方の深さは $0.07 \sim 0.28 \, \mathrm{m}$ ほどである。 $\mathrm{P1} \sim 3 \, \mathrm{s}$ り西側が、ローム土 が硬く締め固められていることから、この貼床(2 層)の西側にカマドが存在した可能性 が考えられる。掘方は、貼床部分の下が一段掘り下げられており、貼床直下で床下土坑(SK1) が確認された。
- 柱 γ P1 \sim 3 が確認された。P3 は貼床下で柱材を埋設した掘方が確認されたため、貼床構築と 同時に柱を立てたか、貼床構築時にはすでに上屋が建てられていたと考えられる。

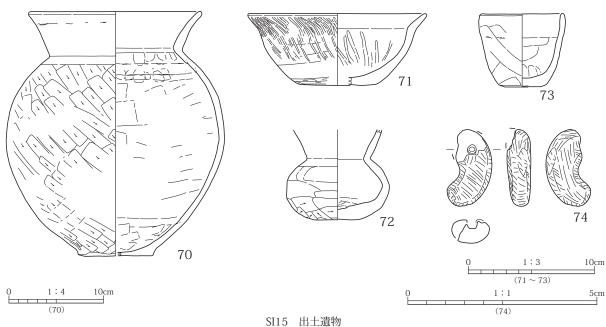


第24図 SI14出土遺物 (1)



第 25 図 SI14 出土遺物 (2)





第 26 図 SI15、SI15 出土遺物

カマド 確認されなかったが、前述のように貼床部分の西側に存在した可能性がある。

貯蔵 穴 確認されなかった。掘方調査時に大形の SK2 が確認され、本来は床面施設であったと判断 したが、貯蔵穴とは考え難い。底面中央で小形壺(72)が1点出土した。

遺 物 土師器などが出土し、そのうち高坏・壺・鉢・甕・勾玉・未製品を図示した。また図示は していないが、遺構検出時に、菰編み石3点が三角形状に並べられた状態で出土した(PL.5)。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

SI16 (第 27 図)

3 区北西隅に位置し、SI8 より古く、SX7 より新しい。北壁断面で床面が確認されたが、平面的な広がりを検出することができなかった。おそらく、遺構南側の縁部分のみが調査区内に位置したものと推測する。確認された遺構の規模は東西 $4.14~\mathrm{m}$ 、床面までの深さは最大 $0.20~\mathrm{m}$ 、掘方の深さは $0.04 \sim 0.18~\mathrm{m}$ ほどである。遺物は出土していないが、重複遺構との関係から、古墳時代前~中期の竪穴建物跡と考えられる。

第2節 竪穴状遺構・カマド

本節では検出範囲が狭小なものや床面施設が見られないものなど、積極的に竪穴建物跡と認定できなかった SX3・5・7 に、カマド部分のみが検出された SX4 を加えた計 4 基についてとりあげる。

SX3 (第 28 図、PL.5)

位 置 2区-6T 南側で検出され、西側・南側は撹乱によって破壊される。遺構の大半は調査区外 に位置するため、遺構の全容は不明である。

形状・規模 検出長は南北 1.59 m、東西 0.30 m、深さは 0.34 mを測る。遺構の北側で明黄褐色土と 焼土が集中して検出されているため、近くにカマドが存在した可能性がある。6 層下の底 面で小穴が確認され、SX3-P1 とした。

遺物
土師器の小片が出土したのみで、図示できるものはなかった。

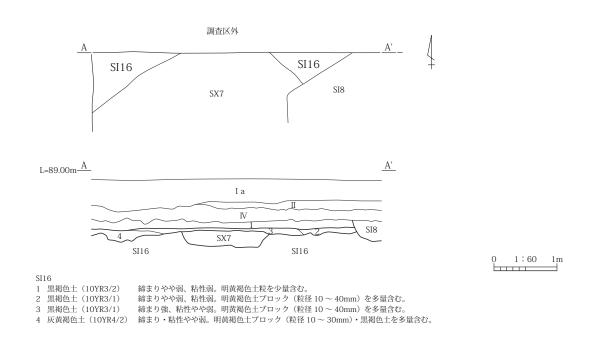
時 期 不明である。

SX4(第28図、PL.5·14)

位 置 3区東端で検出された明黄褐色土で構築されたカマドである。床面や柱穴、掘方などが確認できなかったため、SIではなくSXとして調査した。カマド燃焼部で計測した主軸方向は N-132°-E である。

形状・規模 燃焼部の規模は、奥行き $0.86~\mathrm{m}$ 、幅 $0.24\sim0.30~\mathrm{m}$ である。天井部はローム土と焼土が混じり合っており、意図的に破壊されたように見える。煙道は確認できていない。燃焼部中央に明黄褐色土で造られた支脚が検出されており、硬く焼き締まっていた。焚き口手前に、部分的にではあるが硬化面が検出された。カマド構築土下に焼土を少量含む黒褐色土が確認されているが、これがカマド掘方埋土なのか、基本層序 IV ないし V 層に相当するのか不詳である。

遺 物 カマド構築材内および周辺から、土師器の坏・甕などが出土した。75 はカマド範囲外から 出土した坏で、燃焼部よりも 8cm ほど低い位置にあった。76 はカマド左側に逆位で置か れていた口縁部と、右袖上部に埋設されていた胴部片である。



第27図 SI16

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

SX5 (第29図)

位 置 3区中央で検出され、遺構の大半をSI8・15に破壊されているため、全容は不明である。 SI8・15より古く、P15・16より新しい。

形状・規模 検出長は南北 1.25 m、東西 0.57 m、深さ 0.14 mを測る。底面は平坦であるが、掘方はない。 SI12 のような、浅い直床の建物跡の可能性がある。P15・16 の上層に本遺構の覆土が沈み こんでいたため、両ピットは SX5 に伴うものではないと判断した。

遺 物 出土しなかった。

時 期 SI8・15 より古いことから、古墳時代中期以前と考えられる。

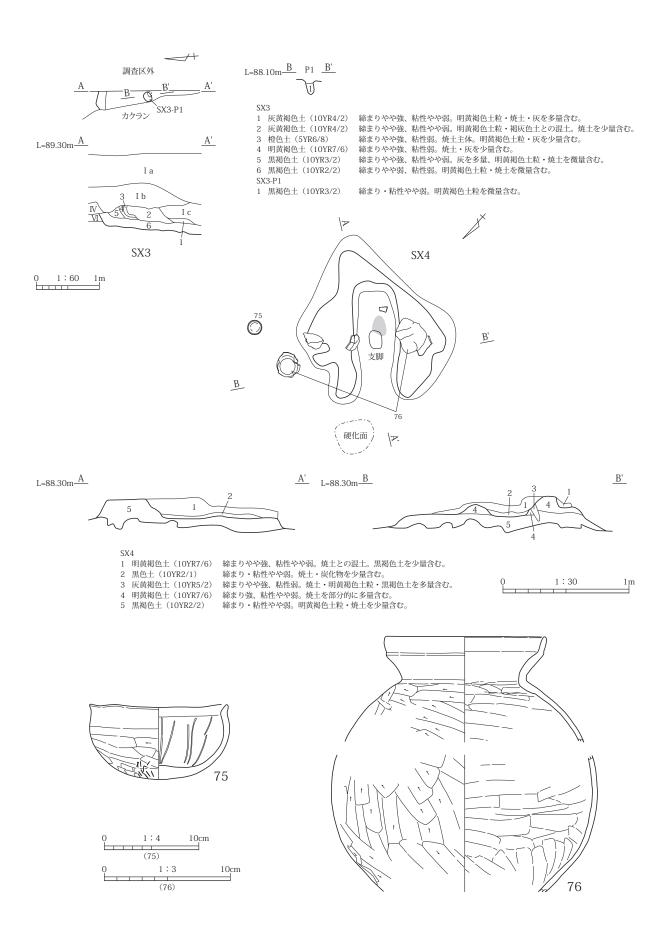
SX7 (第 29·30 図、PL.15)

位 置 3 区西端から 2 区 -2T にかけて検出された。SI8・16、SK8、P17・21 より古く、SI7 より新しい。遺構底面で、P18 \sim 20 が並んだ状態で検出された。P18 \sim 20 は浅い窪み状の遺構であり、柱穴や炉跡ではないと考えられる。

形状・規模 検出長は長軸 6.01 m、短軸 4.23 m、深さは 0.48 mを測る。平面形は小判形に近い隅丸 長方形と推定される。底面は概ね平坦であるが、北西部が若干高くなる。柱穴・炉跡など の床面施設が確認できなかったため、竪穴状遺構とした。

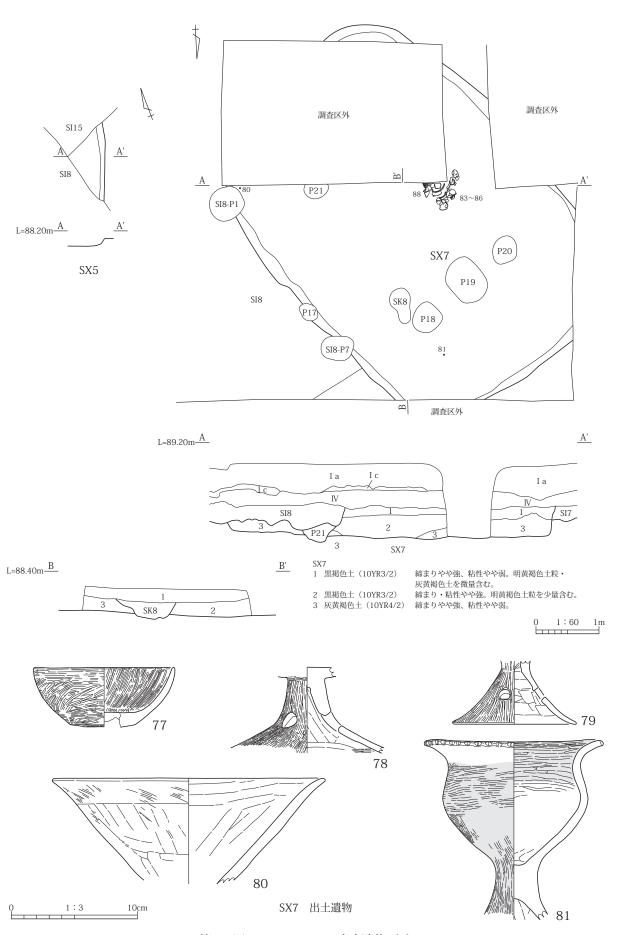
遺 物 土師器などが出土し、そのうち高坏・器台・壺・台付甕を図示した。赤彩された高坏(81) は底面付近から出土したが、 $83 \sim 86 \cdot 88$ などの遺物は上層からまとまった状態で出土した。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代前期と考えられる。

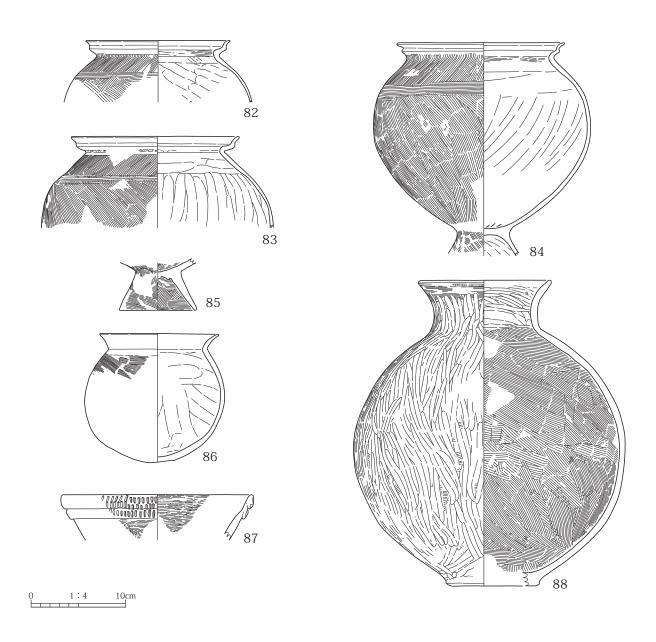


SX4 出土遺物

第28図 SX3・4、SX4 出土遺物



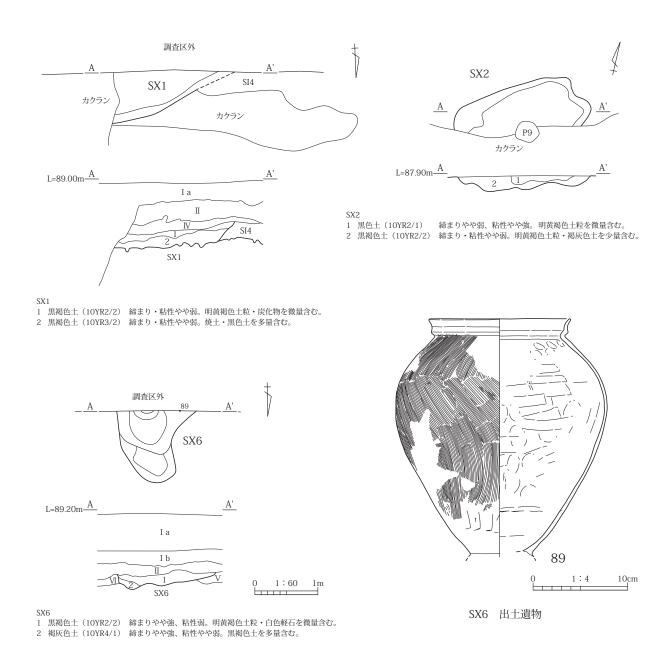
第29回 SX5·7、SX7出土遺物(1)



第30図 SX7 出土遺物(2)

第3節 性格不明遺構 (第28~31 図、PL.5·6·14~16)

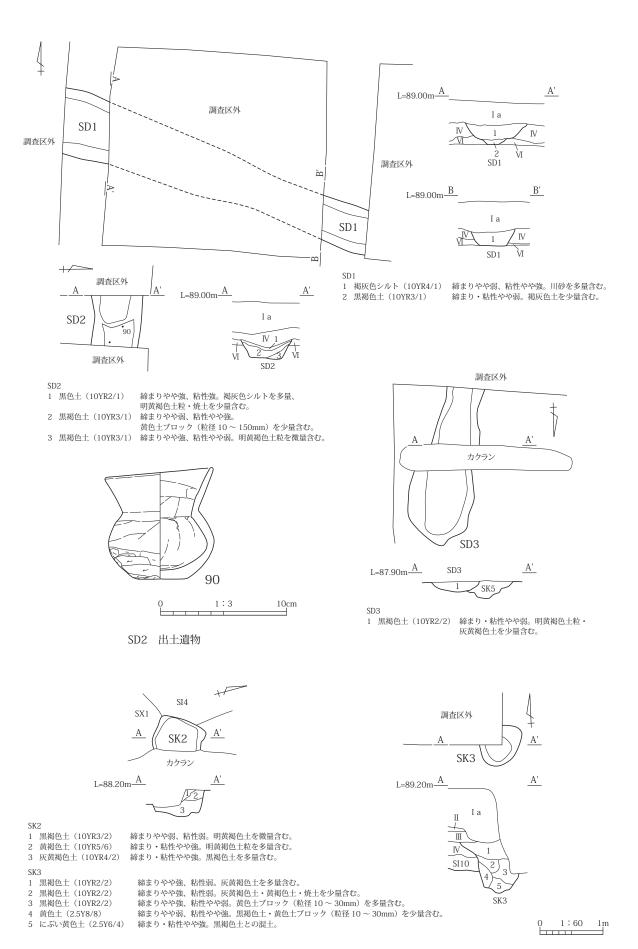
本遺跡で確認された性格不明遺構は、SX1・2・6の3基である。SX1は1区中央南壁際で検出され、竪穴建物跡の可能性もあるが、明確な床面などが確認できなかったためSXとした。東側を撹乱によって破壊されるほか、遺構の大半が調査区外に位置するため全容は不明である。検出長は長軸1.59 m、短軸0.73 m、深さは0.24 mである。遺構の時期は、SI4より新しいことから、古墳時代中期以降と考えられる。SX2はSI10床面調査時に検出された遺構で、P9より古く、SI10より新しい。平面形は楕円形で、検出長は長軸2.08 m、短軸0.77 m、深さ0.24 mである。遺構の時期は、SI10より新しいことから古墳時代前期以降と考えられる。SX6は3区東側で検出された樹痕の可能性が高い窪みであるが、遺物が多く出土したため遺構と認定した。平面形は不整楕円形と想定され、検出長は南北1.14 m、壁面で確認された東西幅は1.56 m、深さは0.22 mである。上層からS字状口縁台付甕(89)がまとまって出土しており、古墳時代前期の遺構と考えられる。



第31図 SX1・2・6、SX6 出土遺物

第4節 溝 (第32図、PL.6·16)

本遺跡で確認された溝は3条であり、いずれもごく一部分のみが検出された。SD1 は2区-2Tから3Tにかけて検出された東西方向の溝で、I層直下のIV層上面から掘り込まれている。緩く蛇行する溝と推定され、主軸方向はおおむねN-69°-Wを示し、検出長5.11 m、幅0.70~1.05 m、深さは0.22~0.30 mである。遺構の時期は不明であるが、かなり新しい時期の可能性がある。SD2 は2区-3Tでのみ検出された東西方向の溝で、断面形状から溝と判断した。主軸方向はおおむねN-84°-Wを示し、検出長0.81 m、幅0.74 m、深さは0.22 mである。2区-2T・4Tで溝の続きが確認されていないことから、最長でも7.5 m以内の溝と推測される。遺物は小型壺(90)などが出土しており、遺構の時期は古墳時代中期と考えられる。SD3 は1区東端で検出された南北方向の溝で、SK5 より新しい。主軸方向はおおむねN-10°-Eを示し、検出長2.50 m、幅0.56~1.00 m、深さは0.14~0.17 mである。遺構の時期は不明である。



第32図 SD1~3、SD2出土遺物、SK2·3

第5節 十坑 (第32·33 図、PL.6·7)

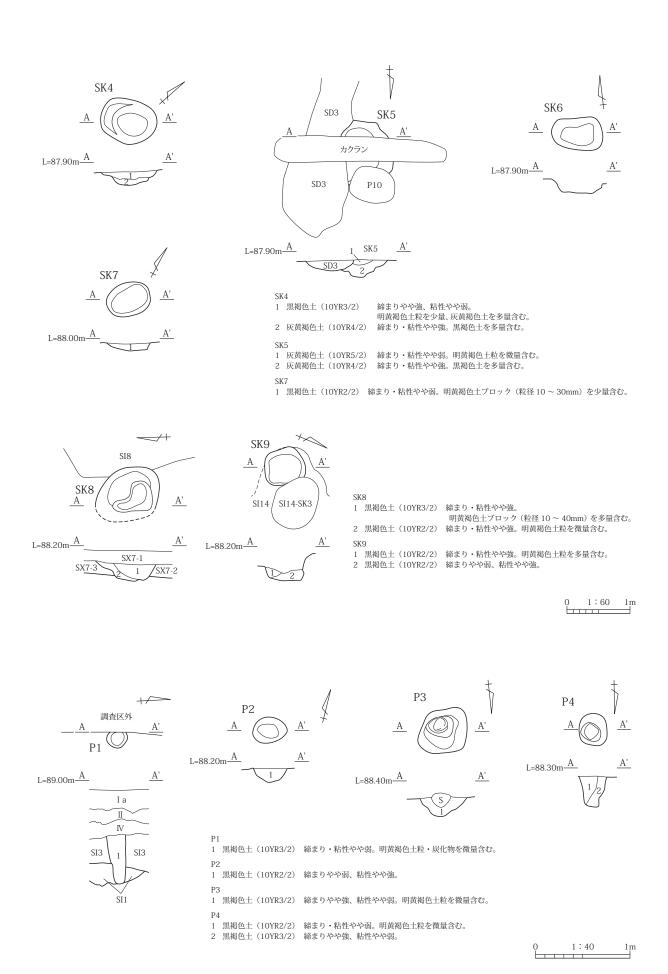
本遺跡で確認された土坑は8基である。SK1はSX7に名称変更したため、欠番となっている。SK2は1 区中央で検出され、東半を撹乱によって破壊される。SI4・SX1より古く、平面形は隅丸方形ないし隅丸長 方形と推測され、断面形状は箱状である。検出長は長軸 0.77 m、短軸 0.51 m、深さは 0.43 mである。遺 構の時期は、SI4 より古いことから、古墳時代中期以前と考えられる。SK3 は 2 区 -6T 南端から 1 区にかけ て検出され、北西部は調査区外に位置する。SI10より新しく、平面形は円形と推測され、断面形状は中央 がやや窪む漏斗状である。検出長は長軸 0.74 m、短軸 0.46 m、深さは 0.74 mである。IV層上面から掘り 込まれ、Ⅲ層に被覆されている土坑である。SK4 は 1 区中央で検出された土坑で、SI10 と重複するが新旧 関係は不明である。平面形は楕円形で、断面形状は浅い段を有する皿状である。長軸 0.90 m、短軸 0.70 m、 深さは 0.21 mである。SK5 は 1 区東端で検出され、SD3、P10 より古く、P12 より新しい。重複遺構や撹 乱に破壊されているため全容は不明であるが、平面形は円形と推測され、断面形状は皿状である。検出長 は長軸 1.03 m、短軸 0.75 m、深さは確認できた範囲で 0.28 mである。SK6 は 1 区東端で検出され、平面 形は楕円形、断面形状は皿状である。検出長は長軸 0.81 m、短軸 0.52 m、深さは 0.17 mである。SK7 は 3 区東側で検出され、平面形は楕円形、断面形状は皿状である。検出長は長軸 0.70 m、短軸 0.54 m、深さ は 0.11 mである。SK8 は SX7 調査中に確認された土坑で、SX7 が埋没する過程で掘り込まれた土坑である。 SI8 より古く、SX7 より新しい。平面形は楕円形と推測され、断面形状はおおむね半円状である。検出長は 長軸 1.05 m、短軸 0.74 m、深さは 0.27 mである。遺構の時期は、SI8・SX7 との新旧関係から、古墳時代 前~中期と考えられる。SK9 は 3 区中央で検出された土坑で、SI14 より古い。遺構の上位は SI14 のカマド によって破壊されており、平面形は円形、断面形状はおおむね U 字状である。検出長は長軸 0.61 m、短軸 0.56 m、深さは 0.21 mである。遺構の時期は、SI14 より古いことから、古墳時代中期以前と考えられる。

第6節 ピット (第33~35図、PL.7)

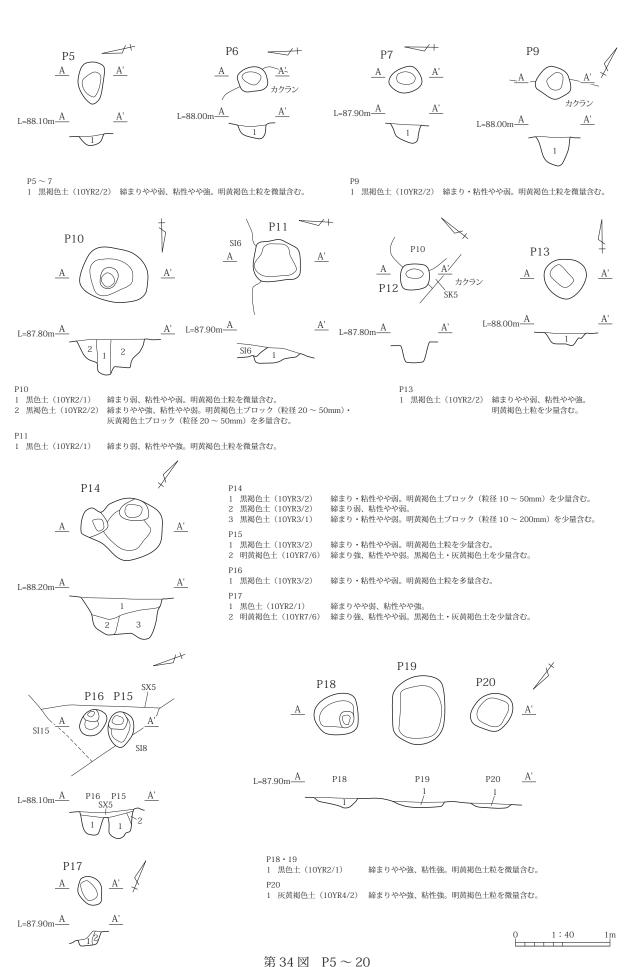
本遺跡で確認されたピットは 31 基(P1 ~ 7・9 ~ 32)で、竪穴建物跡・竪穴状遺構の底面や確認面で確認されたもの以外は全てVI層上面で確認された。P18 ~ 20 は SX7 の底面で確認されており、SX7 に伴う遺構の可能性がある。P31 は上層が地山に酷似した明黄褐色土で埋まっており、当初 SI6-P2 がオーバーハングしているものとして調査したが、整理段階で重複する別遺構と判断した。P32 は SI11 を掘り込んでいるピットであるが、壁面断面のみの検出である。調査したピットのうち大半は柱穴と考えられるが、調査面積が狭小であるため、掘立柱建物跡を認定することはできなかった。各ピットの詳細は、第 2 表を参照されたい。

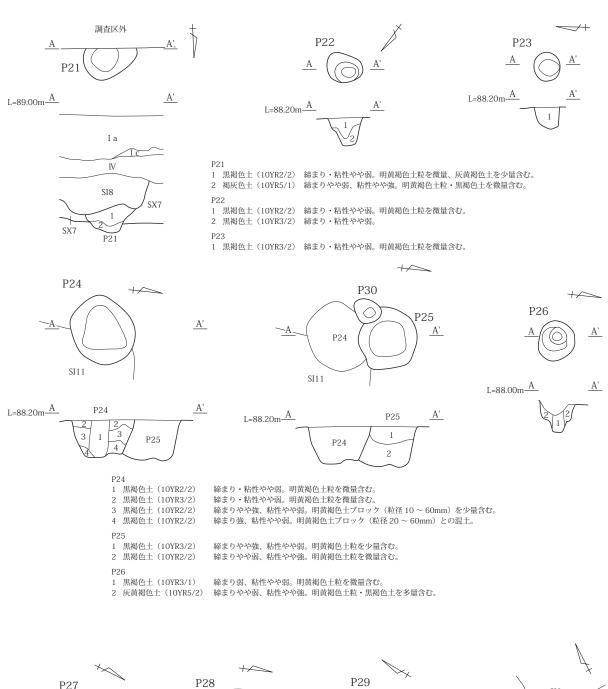
第7節 その他の遺物 (第36 図、PL.16)

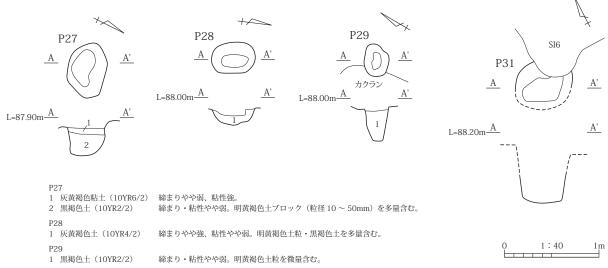
本節では、上記遺構から出土した遺物のうち、遺構の時期とは異なる年代の遺物を掲載する。91・92 は縄文時代中期の深鉢片である。93・94 は、樽式の系譜を引く弥生系土器である。95 は吉ヶ谷式の系譜を引く弥生系土器である。96 は古墳時代前期古段階の壺の口縁部で、有段口縁に棒状の浮文が付けられている。



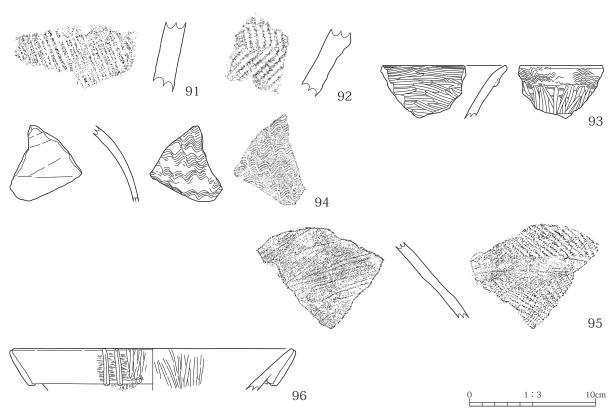
第33図 SK4~9、P1~4







第35図 P21~31



第36図 その他の遺物

第2表 ピット観察表

	304-36-€2	AAUU ==	W112	Not are not all to		規模 (m)		子·拉明/5 / 世·七
No.	調査区	検出面	平面形	断面形状	長軸	短軸	深さ	重複関係・備考
1	1区	_	円形	U 字状	0.22	(0.16)	0.52	SI3 より新。
2	2区-3T	VI層	楕円形	半円状	0.36	0.28	0.14	
3	1区	VI層	円形	半円状	0.51	0.46	0.29	上層および底面から円礫出土。
4	1区	VI層	円形	U 字状	0.34	0.30	0.32	柱痕跡あり。
5	2区-1T	VI層	円形	U 字状	(0.45)	(0.27)	0.10	SI6・11 より新。
6	2区-1T	VI層	円形	半円状	(0.30)	(0.26)	0.13	SI6・11 より新。
7	2区-1T	_	円形	U 字状	0.33	0.27	0.19	SI6 より新。
8						欠番		
9	1区	_	楕円形	U 字状	(0.37)	(0.35)	0.30	SI10、SX2 より新。
10	1区	VI層	楕円形	U 字状	0.71	0.56	0.37	SK5、P12より新。柱痕跡あり。
11	1区	VI層	楕円形	皿状	(0.50)	0.43	0.16	SI6 より古。
12	1区	VI層	円形	U 字状	0.31	(0.27)	0.19	SK5、P10より古。
13	3区	VI層	円形	皿状	0.43	0.43	0.12	
14	3区	VI層	楕円形	階段状	0.86	0.65	0.59	2基の柱穴からなる。掘り直しか。
15	3区	_	楕円形	U 字状	(0.38)	(0.27)	0.37	SI8、SX5 より古。
16	3区	-	楕円形	U 字状	(0.30)	(0.24)	0.37	SX5 より古。
17	3区	-	円形	U 字状	(0.31)	(0.26)	0.15	SI8 より古、SX7 より新。底面に土器片が敷かれる。
18	3区	-	円形	皿状	(0.46)	(0.43)	0.16	SX7 底面で検出。
19	3 ⊠	_	楕円形	皿状	(0.72)	(0.55)	0.06	SX7 底面で検出。
20	3区	-	楕円形	皿状	(0.47)	(0.37)	0.04	SX7 底面で検出。
21	3区	-	円形	U 字状	(0.58)	(0.32)	0.28	SI8 より古、SX7 より新。
22	3区	VI層	楕円形	U 字状	0.38	0.31	0.29	
23	3区	VI層	円形	U 字状	0.31	0.27	0.22	
24	3区	VI層	円形	U 字状	(0.72)	(0.63)	0.39	SI11 より古、P25・30 より新。柱痕跡あり。
25	3区	VI層	円形	U 字状	0.65	(0.62)	0.42	SI11、P24 より古。P30 と重複。
26	3区	-	円形	階段状	0.43	0.37	0.30	SI11 より古。
27	3区	_	楕円形	U 字状	0.59	0.41	0.29	SI14 より古。
28	3区	VI層	楕円形	半円状	0.46	0.33	0.17	
29	3区	VI層	楕円形	U 字状	(0.34)	0.26	0.35	
30	3 ⊠	VI層	円形	U 字状	(0.28)	(0.25)	0.46	P24 より古。P25 と重複。
31	1区	_	楕円形	U 字状	(0.66)	(0.55)	(0.62)	SI4 ~ 7 より古。
32	2 区 -1T	_	_	U 字状	_	_	0.30	壁面断面でのみ確認。SI11より新。

第3表 遺物観察表(1)

	- ,-	.,	(-)			
掲載 No.	種別 器種	出土遺構	出土 位置	計測値(cm・g) 残存 色調(外側・内側)/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
1	土師器 高坏	SI 1	検出面	口:(16.2) 高:(6.3) 底:- 坏部 外:橙色 内:橙色 /良好	石・長・凝・片・ 角・チ・橙	外面:口縁部ヨコナデ・ナデ。体部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。体~底部ナデ。
2	土師器 坏	SI 1	検出面	口:12.2 高:4.1 底:9.7 1/2 外:明赤褐色 内:にぶい赤褐色 /良好	石・長・凝・角・ チ・橙	外面:口縁部ヨコナデ後、横方向のヘラミガキ。体部ナデ。 底部ヘラケズリ。内面:ヨコナデ・ナデ後、放射状のヘラ ミガキ。
3	土師器 甕	SI 1	検出面	口:(20.0) 高:(7.9) 底:- 口縁~胴部上位 外:にぶい橙色 内:にぶい橙色 /良好	石・長・凝・チ	外面: 口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部ヘラケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
4	土師器 甕	SI 2	覆土	口:(13.4) 高:(10.0) 底:- 口縁~胴部 外:にぶい橙色 内:にぶい赤褐色 / 良好	石・長・凝・片・ 角・チ・橙	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。
5	土師器 高坏	SI 3	覆土 + SI 1 検出面	口:(16.0) 高:(4.8) 底:- 坏部 外:橙色 内:橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ・橙	外面: 口縁部ヨコナデ後、斜方向のヘラミガキ。体部ナデ。 内面: ヨコナデ後、放射状のヘラミガキ。
6	土師器 坏	SI 3	覆土	口:(13.0) 高:(5.5) 底:- 1/4 外:橙色 内:橙色 /良好	石・凝・角・チ・ 橙	外面:口縁部ヨコナデ。体~底部ヘラケズリ。内面:口縁 部ヨコナデ後、斜方向のヘラミガキ。体・底部ヨコナデ・ ナデ後、放射状のヘラミガキ。
7	土師器 壺	SI 3	覆土	口:(13.0) 高:(7.1) 底:- 口縁~頸部 外:橙色 内:にぶい橙色 / 良好	石・長・凝・角・ チ	外面:ヨコナデ後、縦方向のヘラミガキ。内面:口縁部ヨコナデ後、縦方向のヘラミガキ。頸部ナデ・指押さえ。
8	土師器 甕	SI 3	No. 1	口:15.5 高:24.5 底:5.3 一部欠損 外:にぶい褐色 内:にぶい褐色 /良好	石・長・凝・チ・ 橙	外面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後、頸部ナデ。底部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。胴〜底部ヘラナデ・ナデ。
9	土師器 甕	SI 3	検出面	口:(16.8) 高:(8.9) 底:- 口縁~胴部 外:にぶい橙色 内:にぶい橙色 /良好	石・橙	外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ・ヘラナデ。内面: ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
10	土師器 高坏	SI 4	No.2	口:17.9 高:(6.7) 底: - 坏部 5/6 外:にぶい赤褐色 内:橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ	外面: 口縁部上位ヨコナデ。口縁部中位~体部ナデ。内面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。
11	土師器 高坏	SI 4	No.3	ロ: - 高: (7.5) 脚径: (10.5) 脚部ほぼ完存 外: 浅黄橙色 内: 浅黄橙色 /良好	石・凝・角 ・チ ・ 橙	外面:脚部ナデ。裾部ヨコナデ。内面:脚部しぼり痕・ナ デ。裾部ヨコナデ。
12	土師器 高坏	SI 4	覆土	ロ: - 高:(9.6) 脚径:(12.5) 脚部 外:にぶい赤褐色 内:にぶい褐色 / 良好	石・凝・角・チ・ 橙	外面:脚部ヘラケズリ後、ナデ・ヘラミガキ。裾部ヨコナ デ後ヘラミガキ。内面:脚部上端ナデ、脚部ヘラケズリ。 裾部ヨコナデ。
13	土師器 高坏	SI 4	覆土	ロ:- 高:(9.3) 脚径:(13.6) 脚部 外:にぶい橙色 内:にぶい橙色 /良好	石・凝・角・チ	外面:脚部ナデ、裾部ヨコナデ後、縦方向のヘラミガキ。 内面:脚部しぼり痕、脚部下端指押さえ・ヘラナデ。裾部 ヨコナデ。
14	土師器	SI 4	No.1	口: 14.3 高: 16.6 底: 丸底 3/4 外: にぶい褐色 内: にぶい褐色 / 良好	石・長・チ	外面:口縁部ナデ。頸部指押さえ。胴部上・中位へラケズ リ。胴部下位〜底部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。胴〜底 部へラナデ・ナデ。外面に黒斑。
15	土師器 甕	SI 4	覆土 + SI 4・6 検出面	口:(23.7) 高:(15.6) 底: - 口縁~胴部 外:暗褐色 内:にぶい黄褐色 / 良好	石・針・凝・角・ チ	外面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨ コナデ。胴部ヘラナデ。
16	土師器 甕	SI 5	覆土	口:(12.0) 高:(5.8) 底: - 口縁〜胴部上位 外:灰黄褐色 内:にぶい黄橙色 / 良好	石・長・凝・片・ 金雲・チ	S字状口縁台付甕。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズ リ後ハケメ。内面:口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。外面に煤 付着。
17	土師器 高坏か	SI 6	No.3	ロ:- 高:(6.6) 脚径:9.8 脚部完存 外:にぶい橙色 内:黒褐色 /良好	石・長・凝・角・ チ	内外面:ヘラミガキ。内面に黒斑。
18	土師器 高坏	SI 6	P2	口:— 高:(6.2) 脚径:(8.5) 脚部 1/2 外:赤褐色 内:明赤褐色 /良好	石・長・凝・角・ チ	外面:ヘラミガキ。内面:坏部ヘラミガキ。脚部ナデ。裾 部ヨコナデ。外面と坏部内面全体、及び脚部内面の一部に 赤彩。
19	土師器 坏	SI 6	覆土	口:(13.4) 高:(4.1) 底:- 口縁~体部 外:にぶい黄橙色 内:にぶい褐色 / 良好	石・凝・角・チ	外面:口縁部ヨコナデ、体部ナデ後、口縁~体部にヘラミ ガキ。内面:ヨコナデ後ヘラミガキ。
20	土師器 台付甕	SI 6	No.4	口:(17.5) 高:29.5 台径:(10.9) 4/5 外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色 / 良好	石・長・角・雲・ チ	外面:口縁部ヨコナデ。胴〜台部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。胴〜底部ナデ。台部ナデ。台端部折り返し。内外面 煤付着。
21	土師器	SI 6	No.1	口:16.0 高:(9.2) 底: - 口縁部ほぼ完存 外:にぶい褐色 内:にぶい黄褐色 / 良好	石・長・凝・チ	外面:口縁部ヨコナデ後ハケメ。胴部ナデ。内面:口縁部 ヨコナデ。胴部ヘラナデ・ナデ。内外面に黒斑。
						I

第4表 遺物観察表(2)

AD 4	衣 退	1701既示	12 (2)			
掲載 No.	種別 器種	出土遺構	出土 位置	計測値(cm・g) 残存 色調(外側・内側)/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
22	土師器	SI 6	上層	口:(12.0) 高:(5.0) 底: - 口縁~胴部上位 外:褐色 内:にぶい橙色 / 良好	石・長・凝・チ	外面:口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ後ナデ。内面:口縁部 ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内外面に煤付着。
23	土師器 台付鉢	SI 6	No.2	ロ: - 高:(11.0) 台径:11.0 体~台部 外:橙色 内:にぶい赤褐色 /良好	石・長・凝・片・ 角・チ	外面:体部へラナデ。台部ナデ・指押さえ。裾部ヨコナデ。 内面:体部へラナデ。底部へラナデ・ナデ。台部へラナデ・ ナデ。裾部ヨコナデ。
24	土師器	SI 6	覆土	口:(11.0) 高:(10.3) 底:- 口縁~胴部 外:赤褐色 内:明赤褐色 /良好	石・長・凝・片・ 角・チ	小型。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面:口縁部ヨ コナデ。胴部ヘラナデ。
25	土師器 壺	SI 6	上層	ロ: - 高: (8.9) 底: 丸底 頸部~底部 1/2 外: にぶい黄橙色 内: にぶい黄橙色 / 良好	長・凝・チ	外面:ハケメ後ヘラミガキ。内面:頸部指押さえ、体部ハケメ後上位ナデ。底部ナデ、底部中央に粘土溜まり。外面に黒斑。
26	土師器 壺	SI 6	上層	口:(16.8) 高:(6.9) 底: - 口縁~胴部上位 外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色 / 良好	石・長・凝・チ・ 橙	有段口縁。外面:口縁部ヨコナデ後、縦方向のヘラミガキ。 胴部ヘラミガキ。内面:口縁部ヨコナデ後、縦方向のヘラ ミガキ。頸部ナデ・指押さえ。胴部ナデ。
27	土師器	SI 6	上層	口:16.7 高:(8.4) 底:— 口縁~胴部上位 外:浅黄橙色 内:黄橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ	有段口縁。外面:口縁有段部ヨコナデ。口縁部ハケメ・ナ デ後、ヘラミガキ。胴部内面:ハケメ・ナデ後、ヘラミガキ。
28	土師器 壺	SI 6	覆土	口:(18.0) 高:(16.2) 底:— 口縁~胴部 外:橙色 内:橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ	外面:口縁〜頸部ヨコナデ。胴部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部指押さえ。胴部ヘラナデ。
29	土師器 甑	SI 6	上層	ロ:- 高:(11.6) 底:(9.1) 胴部下位 外:にぶい黄橙色 内:灰黄褐色 /良好	石・長・凝・雲・ チ	外面:胴部ヘラケズリ。内面:胴部ヘラナデ。内面に煤付着。
30	土師器	SI 7	覆土	口:(15.0) 高:(4.6) 底: - 口縁~胴部上位 外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色 / 良好	石・長・片・雲・ チ	外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。肩部に横位のハケメ。 内面:口縁部ヨコナデ。顕部指押さえ。胴部ナデ。
31	土師器 甕	SI 7	覆土	口:(22.0) 高:(5.5) 底:- 口縁~胴部上位 外:にぶい橙色 内:にぶい橙色 /良好	石・長・凝・片・ 角・チ・橙	S字状口縁台付甕。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ、 肩部に横方向のハケメ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部ハケ メ。胴部ナデ。
32	土師器 高坏	SI 8	No.5	口:17.7 高:15.4 脚径:(12.7) 4/5 外:暗赤褐色 内:赤褐色 /良好	石・凝・角・チ	外面:口縁部ヨコナデ・ナデ、口縁部下端ヘラケズリ後、縦・斜方向のヘラミガキ。体部・脚接合部ヘラケズリ。脚部ナデ後、縦方向のヘラミガキ。内面:坏部ナデ後、放射状のヘラミガキ。脚部絞り痕・ヘラケズリ、裾部ヨコナデ。
33	土師器 高坏	SI 8	No.14	口:16.5 高:(12.4) 底:- 3/4 外:明赤褐色 内:明赤褐色 /良好	石・長・凝・チ	外面:口縁部ヨコナデ・ナデ後、縦・斜方向のヘラミガキ。 体部ヘラケズリ。脚部ヘラミガキ。内面:口縁・体部ヨコナデ後、横・斜方向のヘラミガキ。底部ヘラミガキ。脚部 絞り痕、ナデ。裾部ヨコナデ。外面に黒斑。
34	土師器 高坏	SI 8	No.6	口:15.8 高:(6.4) 底: - 坏部完存 外:橙色 内:橙色 /やや良好	石・長・凝・片・ チ	外面:口縁部ヨコナデ。体・脚接合部ヘラケズリ後、ヘラナデ・ナデ。内面:口縁・体部ヨコナデ。底部ナデ。
35	土師器 坏	SI 8	No.10	口:(13.0) 高:4.8 底:(7.6) 1/4 外:橙色 内:橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ・橙	外面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状のヘラミガキ。 底部ナデ。
36	土師器 鉢	SI 8	覆土 + 掘方	口:(11.8) 高:(4.6) 底:— 口縁~体部 外:橙色 内:橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ・赤	外面:口縁部ヨコナデ。体部ハケメ・ナデ。内面:口縁部 ヨコナデ。体部ナデ、器面剥落。
37	土師器 壺	SI 8	覆土	口:(14.7) 高:19.5 底:6.5 1/2 外:黒褐色 内:橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ・赤	有段□縁、外面:□縁部ヨコナデ。胴部ナデ後、ヘラミガ キ。底部ヘラケズリ。内面:□縁部ヨコナデ。胴・底部ヘ ラナデ・ナデ。外面に黒斑、煤付着。
38	土師器 壺	SI 8	No.9	口:(24.7) 高:(8.8) 底:- 口縁部 外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色 / 良好	石・長・凝・角・ チ	有段口縁。外面:口縁部ハケメ後、ヨコナデ・ナデ。内面: ハケメ後、ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ。
39	土師器 甕	SI 8	覆土 + SI6 覆土	口:17.8 高:(11.1) 底:- 口縁部~胴部上位 外:暗褐色 内:灰黄褐色 /良好	石・長・片・チ	外面:口縁部・頸部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。外面に煤付着。
40	土師器 甕	SI 8	覆土 + 掘方 + SI8-P1+ SX7 覆土	ロ: - 高: (20.5) 底: - 胴部 外: 暗赤褐色 内: にぶい赤褐色 / 良好	石・凝・角・チ	外面: 胴部上・中位条痕、下位ハケメ。内面: ヘラナデ・ナデ・ 指押さえ。内外面煤付着。
41	土師器 甑	SI 8	No.3+4+ 12+ 13+ 覆土	口: 29.0 高: 25.2 底: (8.2) 3/4 外: にぶい橙色 内: にぶい橙色 / 良好	石・長・凝・角・ チ	底部全孔。外面:口縁・頸部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後、ヘラナデ・ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。

第5表 遺物観察表(3)

						T
掲載 No.	種別 器種	出土 遺構	出土 位置	計測値(cm・g) 残存 色調(外側・内側)/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
42	石器 砥石	SI 8	掘方	長: 19.5 幅: 11.1 厚: 5.0 重: 1754.6		刃物砥石。流紋岩。
43	石器 棒状加工礫	SI 8	No. 7	長:(18.9) 幅:(8.0) 厚:(5.7) 重:1315.0		下端と右側に弱い敲打痕あり。右側と下端にスス付着。 結晶片岩。
44	石器 砥石	SI 8	掘方	長: 9.6 幅: 2.8 厚: 2.4 重: 109.7		全面にスス付着。凝灰岩。
45	石製品 石製模造品	SI 8	No. 1	長: 4.9 幅: 1.2 厚: 0.4 重: 3.0		剣形。右側面は再加工面であり、本来の器幅は現状の 2 倍あったと考えられる。結晶片岩。
46	土師器 甕	SI 10	覆土	口:(13.7) 高:(8.7) 底: - 口縁~胴部 外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色 / 良好	石・長・凝・角・ チ	外面:口縁部ハケメ後、ヨコナデ・指押さえ。頸部工具痕。 胴部ハケメ。内面:口縁部ハケメ・ナデ。胴部ヘラナデ・ ナデ。外面と内面口縁部に煤付着。
47	土師器	SI 10	覆土	ロ: - 高: (9.3) 底: (6.8) 胴〜底部 外: にぶい黄橙色 内: にぶい黄橙色 / 良好	石・凝	外面:胴部ヘラミガキ。底部ナデ。内面:ナデ。外面に黒斑。
48	土師器 壺	SI 10	覆土	ロ: - 高: (16.5) 底: - 頸~胴部 外:にぶい橙色 内: にぶい橙色 / 良好	石・長・凝・角・ チ	外面:頸部ヨコナデ。胴部上位横位の無節縄文 (L)。胴部 中位ハケメ後、縦方向のヘラミガキ。内面:頸部ヘラミガ キ。胴部上位ナデ・指押さえ。胴部ヘラナデ。外面の縄文 施文部以外と内面頸部に赤彩色。
49	土師器 高坏	SI 11	掘方 + SI6 覆土	口:(18.2) 高:(5.3) 底:- 坏部 外:橙色 内:橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ・赤	外面: ヨコナデ後、斜方向のヘラミガキ。内面: ヨコナデ・ナデ後、放射状のヘラミガキ。
50	土師器 壺	SI 11	No.2	口:(15.5) 高:(7.5) 底: - 口縁〜胴部上位 外:橙色 内:にぶい橙色 / 良好	石・長・凝・角・ チ・赤	有段口縁。外面:口縁〜頸部ヨコナデ。胴部ハケメ。内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ナデ・指押さえ。
51	土師器	SI 11	No. 1	ロ: - 高: (5.6) 底: 3.0 体・底部完存 外: にぶい褐色 内: にぶい褐色 / 良好	石・長・凝・角・ チ・赤	小型。外面:口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、下半ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体~底部ナデ。外面に黒斑。
52	石製品 石製模造品	SI 11	覆土	長: (3.6) 幅: (1.8) 厚: 0.4 重: 3.5		形能は不明。結晶片岩。
53	土師器 高坏	SI 13	No.5	口: — 高: (9.4) 脚径: (8.1) 坏部下半~脚部 外: 明赤褐色 内: 明赤褐色 /良好	石・長・凝・片・ チ	脚部3方に透孔。外面:坏部斜・横方向のヘラミガキ。脚部総方向のヘラミガキ。裾端部ナデ。内面:坏部ヘラミガキ。脚部上端しぼり痕、上位ナデ、中・下位ハケメ。
54	土師器 高坏	SI 13	No. 1	口:19.1 高:(6.9) 底: - 坏部 外:にぶい赤褐色 内:にぶい赤褐色 / 良好	石・凝・角・チ	外面: 口縁部ヨコナデ後、斜方向のヘラミガキ。体部ナデ。 内面: ヨコナデ・ナデ後、放射状のヘラミガキ。
55	土師器 甑	SI 13	No.3	ロ:- 高:(6.9) 底:5.8 胴〜底部 外:にぶい橙色 内:橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ	単孔。焼成前穿孔。外面:ナデ。内面:胴部ヘラナデ。底部ナデ。
56	土師器 坏	SI 14	No.12	口:16.3 高:6.4 底:4.6 ほぼ完存 外:橙色 内:橙色 /良好	石・凝・角・チ	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、横・斜方向の ヘラミガキ。底部ヘラケズリ。内面:ヨコナデ・ナデ後、 放射状のヘラミガキ。外面に黒斑。
57	土師器 坏	SI 14	No.17	口: 12.9 高: 5.3 底: 丸底 完存 外: 明赤褐色 内: 明赤褐色 /良好	石・凝・角・チ	外面: 口縁部ヨコナデ。体・底部ヘラケズリ。内面: ヨコナデ・ナデ後、放射状のヘラミガキ。
58	土師器 坏	SI 14	No.3	口:14.0 高:5.1 底:丸底 完存 外:橙色 内:橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ	外面:口縁部ヨコナデ。体・底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体・底部ナデ後、ヘラミガキ。外面に黒斑。
59	土師器 器台	SI 14	No.13+15	ロ: - 高:(13.0) 底:(16.8) 2/3 外:にぶい橙色 内:明赤褐色 /良好	石・長・針・凝・ 角・片・金雲・ 絹雲・チ	环部に透孔、焼成後穿孔2ヶ所、未貫通孔1ヶ所。内面中央部に凹み。外面:口縁部ヨコナデ。脚部ナデ後、縦方向のヘラミガキ。脚部ヨコナデ。内面:口縁・体部ヨコナデ。底部ナデ。脚部しぼり痕。裾部ハケメ後、ヨコナデ。
60	土師器 鉢	SI 14	No.14	口:(24.0) 高:(6.2) 底:- 口縁~体部 外:にぶい褐色 内:灰褐色 / 良好	石・長・凝・チ	外面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面: ヨコナデ・指押さえ。体部ヘラナデ・ナデ。
61	土師器 壺	SI 14	No.11	ロ:7.0 高:8.4 底:4.4 ほぼ完存 外:にぶい橙色 内:にぶい橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ・橙	外面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。体・底部ナデ・指押さえ。外面に黒斑。

第6表 遺物観察表(4)

掲載 No.	種別 器種	出土 遺構	出土 位置	計測値(cm・g) 残存 色調(外側・内側) /焼成	胎土	特徴・調整・文様等
62	土師器	SI 14	No.8	口: (13.5) 高: 16.4 底: 6.5 4/5 外: 橙色 内: 橙色 / 良好	石・長・凝・角・ チ・橙	外面:口縁・頸部ヨココナデ。胴部上半ナデ、下半ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部指押さえ。胴・底部ヘラナデ・ナデ。
63	土師器 壺	SI 14	No.5	口:- 高:(21.4) 底:- 胴部上半 外:赤褐色 内:赤褐色 / 良好	石・長・凝・雲・ チ	外面:ヘラナデ・ナデ。内面:ヘラナデ・ナデ・指押さえ
64	土師器 甕	SI 14	No.5	ロ:- 高:(16.0) 底:- 胴部 外:にぶい橙色 内:にぶい橙色 /良好	石・長・針・凝・ 片・角・雲・チ	外面:ヘラケズリ。内面:ヘラナデ。
65	土師器	SI 14	No.9	口:18.4 高:(14.3) 底:- 口縁部~胴部上半 外:にぶい橙色 内:にぶい橙色 /良好	石・長・凝・チ・ 橙	外面:口縁・頸部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面:口縁部 ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
66	土師器 甕	SI 14	No.4	口:18.3 高:34.7 底:(6.4) 1/3 外:にぶい褐色 内:にぶい褐色 /良好	石・長・凝・チ	外面:口縁・頸部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後、ヘラナデナデ。底部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。胴・底部ヘラナデ。外面に黒斑、煤付着。
67	土師器 甕	SI 14	No. 1	口:14.9 高:(27.2) 底:- 2/3 外:にぶい橙色 内:にぶい赤褐色 / 良好	石・長・凝・片・ チ	外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後、上半ヘラナデ 内面: 口縁部ヨコナデ。頸部指押さえ。胴部ヘラナデ・ナデ
68	土師器 有孔鉢	SI 14	No.2	口:19.2 高:11.8 底:2.8 4/5 外:にぶい橙色 内:橙色 /良好	石・長・針・凝・ 片・絹雲・チ	底部全孔。外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面:口縁部折り返し、ヨコナデ・指押さえ。体部ヘラナデ・ナデ。
69	土師器 甑	SI 14	No.10	口:18.5 高:23.5 底:7.4 2/3 外:にぶい黄橙色 内:灰黄褐色 /良好	石・長・凝・片・ 絹雲・チ	底部全孔。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面: ヘラナデ・ナデ。外面に黒斑。
70	土師器	SI 15	SI 15-SK2 + 覆土 + 掘方	ロ:(18.0) 高:25.8 底:8.0 1/3 外:灰褐色 内:にぶい橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ	外面:口縁・頸部ヨコナデ。胴・底部ヘラケズリ。内面 口縁部ヨコナデ。頸部指押さえ。胴・底部ヘラナデ・ナデ。 内面に黒斑。
71	土師器 坏	SI 15	SK1 + P3	ロ:(14.0) 高:5.7 底:(6.1) 1/4 外:橙色 内:橙色 /やや良好	石・凝・角	外面:口縁部ヨコナデ、体部ナデ後、ヘラミガキ。体部下端・底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体・底部ナデ後、放射状のヘラミガキ。
72	土師器 壺	SI 15	No.5	ロ:- 高:(7.2) 底:2.0 口縁部欠損 外:にぶい橙色 内:灰黄褐色 / 良好	石・長・凝・角・ チ	外面:口縁部ヨコナデ。体部上・中位ナデ。体部下位・追部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体・底部ナデ。
73	土師器 鉢	SI 15	SK2	口:(6.4) 高:5.8 底:3.6 1/3 外:橙色 内:にぶい橙色 / 良好	石・凝・角・チ・ 橙	外面:口縁部ヨコナデ。体・底部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。体・底部ナデ。
74	石製品 勾玉未製品	SI 15	SK2	長: (2.0) 幅: (1.2) 厚: (0.6) 重: 1.9		穿孔時の欠損か。チャート。
75	土師器 坏	SX 4	No.1	ロ:10.8 高:6.0 底:丸底 ほぼ完存 外:橙色 内:橙色 / 良好	石・凝・角・チ	外面:口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部中位〜底部へ ラケズリ。体部下位・底部に工具痕あり。内面:口縁部ヨ コナデ。体・底部ヘラナデ・ナデ後、放射状のヘラミガキ。
76	土師器 壺	SX 4	No.4+5+ 覆土 + 掘方	口:16.7 高:(27.0) 底:- 口縁〜胴部 外:にぶい橙色 内:橙色 / 良好	石・長・針・凝・ 片・絹雲・チ・ 赤	有段口縁。外面:口縁・頸部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。 頸部指押さえ。 胴部ヘラナデ・ナデ。
77	土師器 高坏	SX 7	覆土	口:11.0 高:(4.8) 底: - 坏部 1/2 外:橙色 内:橙色 / 良好	石・長・凝・角・ チ・赤	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後、横・斜め方向のヘラミガキ。内面:口縁部ヨコナデ、体部ナデ後、口縁体部縦・斜方向のヘラミガキ。底部ヘラミガキ。外面に黒斑。
78	土師器 高坏	SX 7	覆土	ロ:- 高:(6.8) 底:- 脚部 1/2 外:橙色 内:にぶい赤褐色 / 良好	石・凝・角・チ・ 橙	脚部 3 方に透孔。外面:縦方向のヘラミガキ。内面:坏部ヘラミガキ。脚部ナデ。裾部横方向のヘラミガキ。
79	土師器 高坏	SX 7	覆土	ロ:- 高:(5.0) 脚径:9.7 脚部ほぼ完存 外:橙色 内:にぶい褐色 / 良好	石・長・凝・角	脚部 3 方に透孔。外面:縦方向のヘラミガキ。内面:脚部 ヘラナデ・ナデ。裾部ヨコナデ。
80	土師器 有孔鉢か	SX 7	No.4	口:(21.4) 高:(8.4) 底: - 口縁~体部 外:黄橙色 内:黄橙色 / やや良好	石・長・凝・角・ チ	外面:ハケメ後、口縁部ヨコナデ、体部ナデ。内面:ナデ。
81	土師器 脚付鉢	SX 7	No.1	口:13.9 高:(14.2) 底:- 3/4 外:赤褐色 内:にぶい橙色 /良好	石・凝・角	外面:口唇部キザミ。口縁部ヨコナデ。体・脚部へラミオ キ。内面:口縁・体部へラミガキ。底・脚部ナデ。外面体 脚部と内面口縁部に赤彩。
82	土師器 甕	SX 7	覆土	ロ:(15.1) 高:(6.5) 底:- 口縁〜胴部上位 外:暗褐色 内:にぶい黄橙色 / 良好	石・長・凝・片・ 角・チ	S字状口縁台付甕。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ、 肩部に横方向のハケメ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部ハケ メ。胴部ナデ。外面に煤付着。

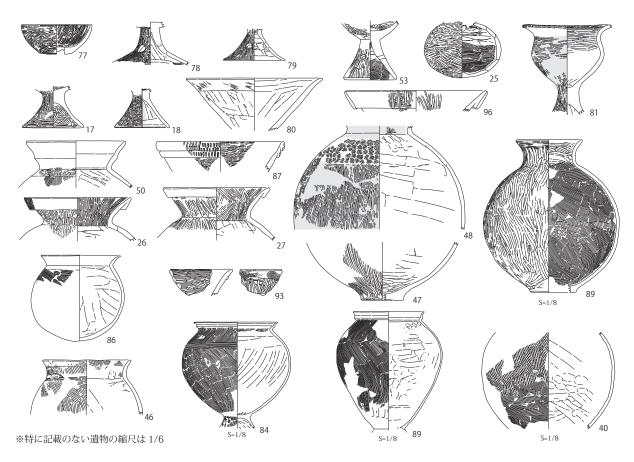
第7表 遺物観察表(5)

掲載 No.	種別 器種	出土遺構	出土 位置	計測値(cm・g) 残存 色調(外側・内側)/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
83	土師器 甕	SX 7	No.2	口:17.6 高:(9.7) 底: - 口縁〜胴部上位 外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄橙色 / 良好	石・長・凝・片・ 角・絹雲・チ	S字状口縁台付喪。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ、 肩部に横方向のハケメ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部指押 さえ。胴部ナデ。外面に煤付着。
84	土師器 甕	SX 7	No.2	口:17.5 高:(22.5) 底:- 2/3 外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄橙色 / 良好	石・長・凝・片・ チ	S字状口縁台付甕。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ、 肩部に横方向のハケメ。台部ハケメ後、ナデ。内面:口縁 部ヨコナデ。頸部ハケメ。胴・底部ヘラナデ・ナデ。台部 ナデ。内外面に煤付着。
85	土師器 台付甕	SX 7	No.2	ロ:- 高:(5.5) 台径:8.0 台部ほぼ完存 外:明褐色 内:橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ	外面:ハケメ。内面:底部ハケメ。台接合部ナデ。台部ハケメ。
86	土師器 甕	SX 7	No.2	口:(12.5) 高:13.7 底:2.6 1/2 外:橙色 内:橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ	外面:口縁部ヨコナデ。胴部上位ハケメ。胴部中位〜底部 ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。胴・底部ヘラナデ・ナデ。
87	土師器 壺	SX 7	覆土	口:(19.8) 高:(4.8) 底:- 口縁部 外:にぶい橙色 内:にぶい橙色 /良好	石・凝・角・チ	複合口縁。外面:有段部にヨコナデ後、キザミ。口縁部へ ラミガキ。内面:横方向のヘラミガキ。
88	土師器 壺	SX 7	No.3	ロ:13.7 高:32.3 底:(9.9) 3/4 外:にぶい橙色 内:明赤褐色 /良好	石・長・凝・角・ チ・橙	外面:口縁部ハケメ・ヨコナデ後、縦方向のヘラミガキ。 胴部ハケメ後、縦・斜方向のヘラミガキ。底部ナデ。内面: 口縁部ハケメ・ヨコナデ後、横方向のヘラミガキ。胴・底部ハケメ。外面に黒斑。
89	土師器 甕	SX 6	No.1	口:(14.8) 高:(25.1) 底:- 1/4 外:にぶい橙色 内:にぶい橙色 /良好	石・長・凝・角・ チ	S字状口縁台付襲。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズ リ後ハケメ。胴部下端部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。頸 部指押さえ。胴部ヘラナデ・ナデ・指押さえ。
90	土師器 壺	SD 2	No.1	口:8.4 高:8.8 底:4.3 ほぼ完存 外:橙色 内:明赤褐色 / 良好	石・長・凝・角・ チ	小型。外面: 口縁・頸部ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下半・ 底部へラケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。体・底部ナデ。
91	縄文土器 深鉢	SI 8	覆土	ロ:- 高:(5.6) 底:- 胴部破片 外:にぶい黄橙色 内:橙色 / 良好	石・凝・角・チ	加曽利EⅢ式。外面:半截竹管による集合沈線。内面:ナデ。
92	縄文土器 深鉢	SI 3	覆土	ロ:- 高:(5.3) 底:- 胴部破片 外:にぶい黄橙色 内:橙色 / 良好	石・長・凝・角・ チ	加曽利 E Ⅲ~IV式。外面:RL 縄文。内面:ナデ。
93	弥生系土器 壺	SI 4	SI 4・6 検出面	ロ:- 高:(4.2) 底:- 口縁部 外:にぶい橙色 内:橙色 /良好	石・長・角・チ	樽式系。有段□縁。外面:□縁有段部ハケメ後波状文(9条)、□縁部縦方向のヘラミガキ。内面:横・斜方向のヘラミガキ。
94	弥生系土器 壺	SI 6	上層	ロ:- 高:(6.0) 底:- 胴部破片 外:にぶい褐色 内:にぶい褐色 /良好	石・長・凝	樽式系。外面:ナデ後、波状文。内面:ヘラナデ・ナデ。 外面に煤付着。
95	弥生系土器 壺	SI 6	上層	口:— 高:(6.0) 底:— 胴部破片 外:浅黄橙色 内:浅黄橙色 /良好	石・長・チ	吉ヶ谷式。外面: 横位縄文(直前段反燃、RRL)。横位に磨消。 内面:横・斜方向のヘラミガキ。
96	土師器 壺	SI 4	SI 4・6 検出面	口:(22.0) 高:(3.3) 底:- 口縁部 外:にぶい橙色 内:にぶい橙色 /良好	石・長・凝・チ・ 橙	有段口縁。外面:棒状浮文2ヶ所残存。ハケメ・ヨコナデ後、 有段部に縦方向のヘラミガキ。内面:縦方向のヘラミガキ。

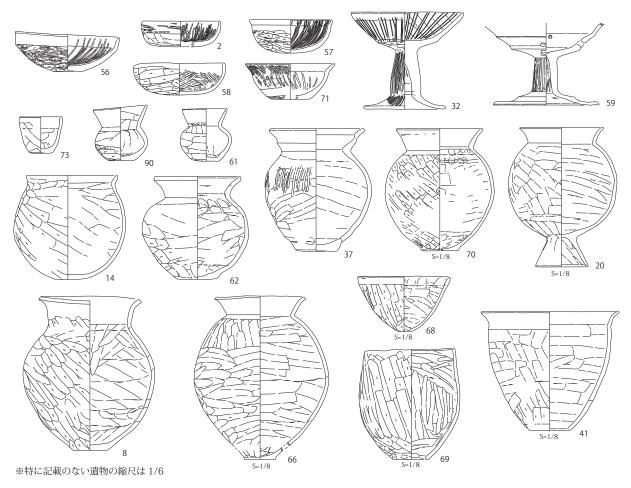
第VI章 まとめ

中居町一丁目遺跡第 5 次調査(以下、第 5 次調査)では、竪穴建物跡 15 軒(SI1 \sim 8 \cdot 10 \sim 16)、竪穴 状遺構 3 基(SX3 \cdot 5 \cdot 7)、カマド 1 基(SX4)、性格不明遺構 3 基(SX1 \cdot 2 \cdot 6)、溝 3 条(SD1 \sim 3)、土 坑 8 基(SK2 \sim 9)、ピット 31 基(P1 \sim 7 \cdot 9 \sim 32)が検出された。確認された竪穴建物跡・竪穴状遺構・カマドは全部で 19 基であるが、このうち土層断面のみで確認された SI16 や、遺構のごく一部のみが検出された SI7 \cdot 12、SX3 \cdot 5 など、遺構の全容が不詳なものも多い。調査区西側から中央にかけては遺構が多く重複も激しいが、東側は撹乱が多いせいか遺構数が少ない傾向にある。遺構の時期が判明している竪穴建物跡・竪穴状遺構・カマドのうち、古墳時代前期のものが 4 基(SI5 \cdot 7 \cdot 10、SX7)、古墳時代中期のものが 10 基(SI1 \sim 4 \cdot 6 \cdot 8 \cdot 11 \cdot 14 \cdot 15、SX4)である。出土遺物はほとんどが弥生土器の系譜を引く土器や古墳時代前期~中期のもので、縄文土器・弥生土器が若干混じるものの、古墳時代後期以降の遺物はほぼ出土していない(第 37 \cdot 38 図)。本章では、今回の発掘調査の成果を踏まえた上で、古墳時代における上中居町・中居町一丁目地区の様相を述べる。

まず、遺跡が立地する地形について見ていく。第 39 図は、明治 18 年作成の迅速図に諏訪神社などの寺社の位置をプロットし、用水路をトレースしたものである (註1)。これを見ると高崎駅の東側は大半が水田地帯と表記されているが、高関村から下中居村方面までは北西—南東方向に村落・畑が広がっており、微高地であることが分かる。この水田地帯を潤す長野堰は岩押村—高関村間で三方面に分流しており、地獄堰は高関村を通って東流、矢中堰は前述の微高地の中央付近を南東流、倉賀野堰は水田地帯を南流している。上中居村の諏訪神社の北東には本遺跡が、その北隣には国道 354 号整備事業に伴う発掘調査区 (註2) が位置し、これらは矢中堰が流れる微高地の北東縁にあたる。極楽寺の東隣では、微高地を南北に縦断する形で環状線



第37図 主要出土遺物(古墳時代前期中心)



第38図 主要出土遺物(古墳時代中期中心)

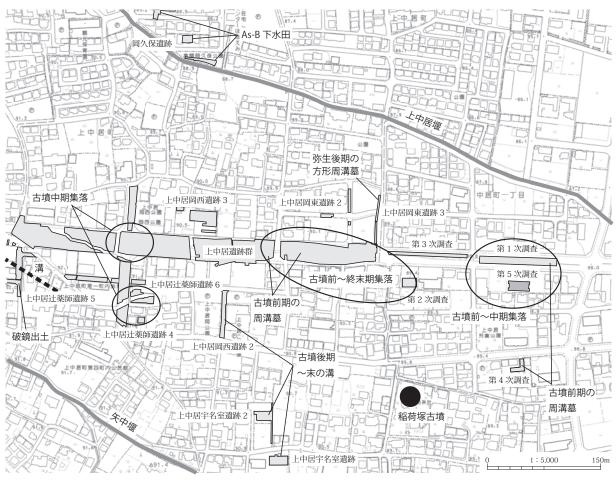
建設に伴う発掘調査 (註3) が行われ、弥生時代~中近世の遺構・遺物が確認されている。

次に本遺跡周辺の調査成果を踏まえて、上中居町・中居町一丁目地区の古墳時代の様相をみていく。第40回は、五千分の一に縮小した都市計画基本図上に、上中居町・中居町一丁目地区の遺構展開状況を記載したものである (註4)。東から見ていくと、中居町一丁目遺跡第1次・第5次調査を中心に古墳時代前期~中期の集落が広がっており、第1次調査区東端では前期の方形周溝墓が1基確認されている。集落の時期としては、第1次調査では前期の遺構が圧倒的に多いのに対して、第5次調査では中期の遺構の方が多い。調査範囲が狭いため確かなことはいえないが、前期集落の範囲と中期集落の範囲は若干ずれている可能性がある。また、第1次調査に比べ第5次調査の遺構密度の方が高いことから、集落域の中心は更に南の上中居児童公園付近である可能性が考えられる。第4次調査で前方後方形周溝墓が確認されているが、この墓が集落と隔絶した墓域内に立地しているのか、集落内に立地しているのか、今後の検討課題であろう。この集落の北から東にかけて上中居堰が流れているが、この水路付近から北方・東方は完全に低地となり、水田が広がっていたものと推測される。

上中居遺跡群(高崎市第 232 集)の東側を中心とする範囲 (註5)では、上中居岡東遺跡 3 (高崎市第 381 集)において弥生時代後期の方形周溝墓が確認されているほかは、古墳時代前期~終末期の集落が広がっている。上中居遺跡群内で前期の方形周溝墓が 2 基確認されていることから、この時期は居住域と墓域が未分離の状態であった可能性が高く、これは前述の第 1・5 次調査の集落でも同様のことがいえる。このエリアの南・南西で後期~終末期の溝が検出されていることに加え、上中居宇名室遺跡 2 (高崎市第 376 集)では後期~終末期の竪穴建物跡が 2 軒確認されていることから、後期以降は南側に集落が展開していった



第39図 高崎駅東側土地利用図



第40図 上中居町・中居町一丁目周辺遺跡の内容

可能性がある。これらの溝の走向方向は南北方向ないし東西方向を指向しており、後述する上中居辻薬師遺跡 5 (高崎市第258集)などで検出された溝とは方向が異なっている。

上中居遺跡群中央部と上中居辻薬師遺跡 4 (高崎市第 258 集)・6 (高崎市第 249 集) 付近にも、古墳時代中期の竪穴建物跡群が 2 ヶ所 (註6) 確認されている。調査範囲が狭いため明確なことはいえないが、古墳時代中期には、このエリアまで集落群が拡大していた可能性がある。これより西側は図の範囲からは外れるが、矢中堰と似た方向の前期~中期の大形溝が複数掘られる区域となり、古墳時代の集落は確認されなくなる。上中居辻薬師遺跡 5 においてこの大形溝が検出されている他、古墳時代中期のものと想定されている溝から勾玉・管玉・破鏡が出土しており、集落域の境界付近において何らかの祭祀行為が行われたと考えられる。

このように上中居町・中居町一丁目地区は、第39図左端の北西-南東方向の大形溝が複数走る区域とそれ以外の集落域に大別され、さらに集落域は遺構密度が希薄なエリアを挟んで複数箇所に分かれているようである。上中居遺跡群東側のみ古墳時代を通して集落が営まれているが、これ以外は限定的な時期幅で集落が営まれていたようである。この地区は国道354号整備事業に伴う発掘調査などが行われてきたこともあり、東西方向での遺跡の様相はかなり判明してきている。今後周辺での調査が進むことによって、南北方向での遺跡の様相、特に上中居遺跡群の南側に存在すると思われる後期~終末期の集落の状況が判明していくことに期待したい。

- (註 1) 第 39 図の中の調査区は、中居町一丁目遺跡第 1 ~ 5 次調査、上中居遺跡群、上中居辻薬師遺跡 1 2、高関村前遺跡 1 2、高関東沖・村前遺跡の調査区である。
- (註2)『中居町一丁目遺跡』(2007)、『中居町一丁目遺跡 3』(2010)、『上中居遺跡群』(2009)。
- (註3)『上中居辻薬師遺跡』(1989)、『上中居辻薬師遺跡Ⅱ』(1992)、『高関村前・村前Ⅲ・東沖遺跡』(1995)、『高関堰村遺跡』(1992) など。
- (註4)第40図は『上中居岡東遺跡 3・高関村前遺跡 3』(2017)の第23図を参考に作成したもので、集落の範囲線などは本報告における推定線である。なお、中居町一丁目遺跡は「第○次調査」とのみ表記した。遺跡名を記載していない調査区は、上中居遺跡群の調査区である。上中居遺跡群の調査区名については、『上中居遺跡群』(2009)を参照されたい。
- (註5) 上中居遺跡群4区東端及び5区から中居町一丁目遺跡第2次調査区にかけての範囲である。第2次調査では6世紀末~7世紀初頭の 竪穴建物跡が1軒の他、古墳時代前期の遺物や平安時代の溝などが検出されている。
- (註6) 上中居遺跡群2区東端から3区西半にかけてと、上中居遺跡群6区から上中居辻薬師遺跡4・6次調査にかけての2ヶ所である。

主要引用・参考文献

高崎市市史編さん委員会 『新編 高崎市史 資料編1』1999

高崎市市史編さん委員会 『新編 高崎市史 資料編2』2000

高崎市文化財調査報告書第 101 集 『上中居辻薬師遺跡』1989 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第 122 集 『上中居辻薬師遺跡Ⅱ』1992 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第135集 『高関村前・村前Ⅱ・東沖遺跡』1995 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第232集 『上中居遺跡群』2009 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第 249 集 『上中居辻薬師遺跡 3』 2009 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第255集 『中居町一丁目遺跡2』2010 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第 258 集 『上中居遺跡群 2』 2010 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第376集 『上中居宇名室遺跡2』2016 高崎市教育委員会・株式会社シン技術コンサル

高崎市文化財調査報告書第 380 集 『中居町一丁目遺跡 4』 2017 高崎市教育委員会・ナイスホーム株式会社・有限会社毛野考古学研究所

高崎市文化財調査報告書第381集 『上中居岡東遺跡3・高関村前遺跡3』2017 高崎市教育委員会

- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 314 集 『中居町一丁目遺跡』2007 県土整備局高崎土木事務所・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 509 集 『中居町一丁目遺跡 3』 2010 群馬県高崎土木事務所・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第681集 『高崎競馬場遺跡(2)』2021 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県

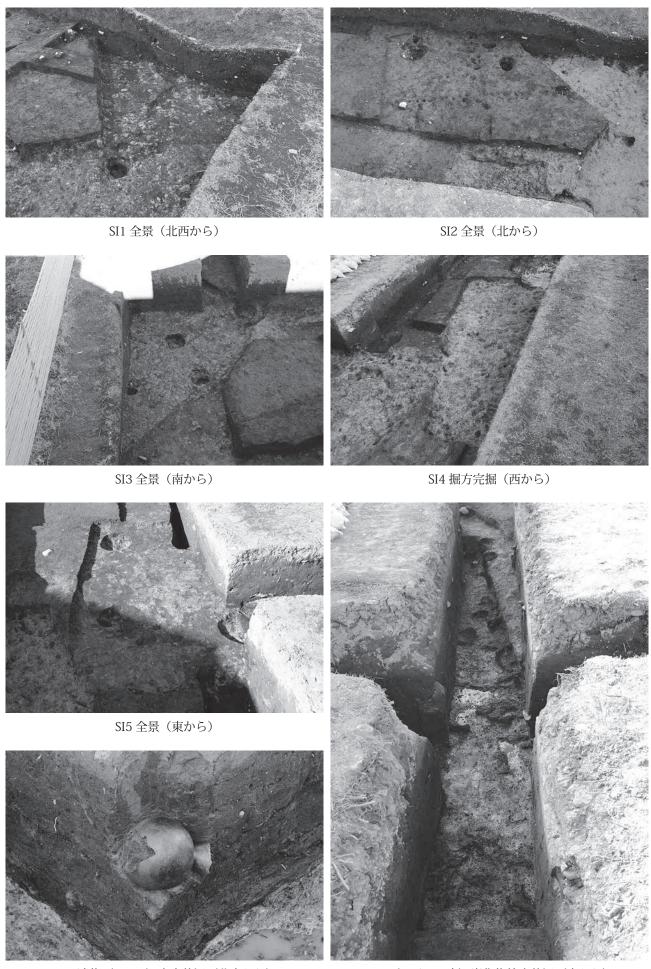
写 真 図 版



1・2区遠景(東から)

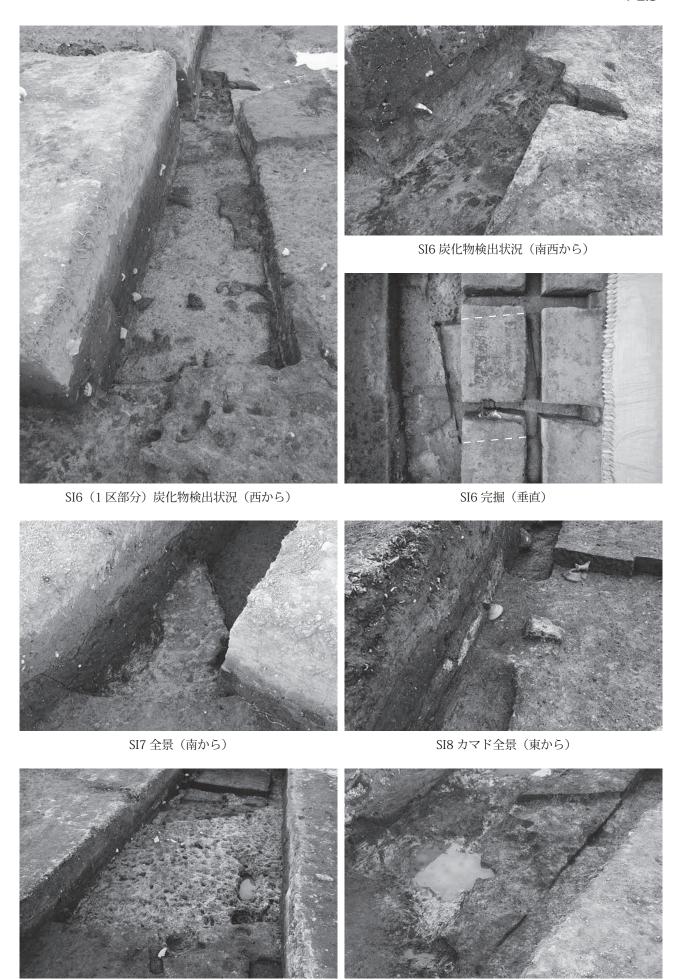


3区全景(東から)



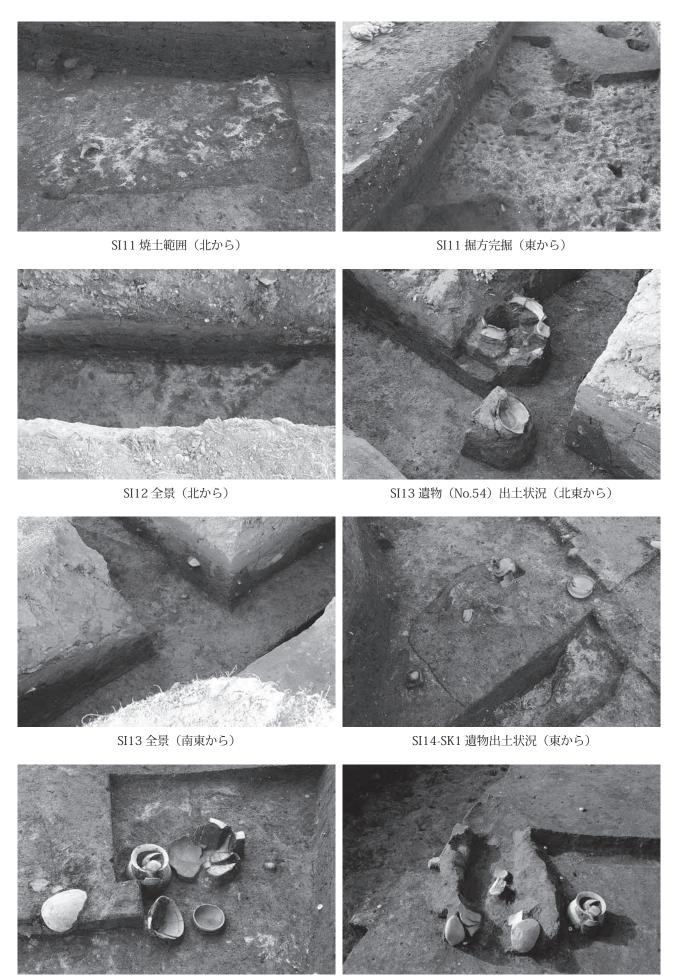
SI6 遺物(No.20)出土状況(北東から)

SI6 (2区-1T内) 炭化物検出状況 (東から)



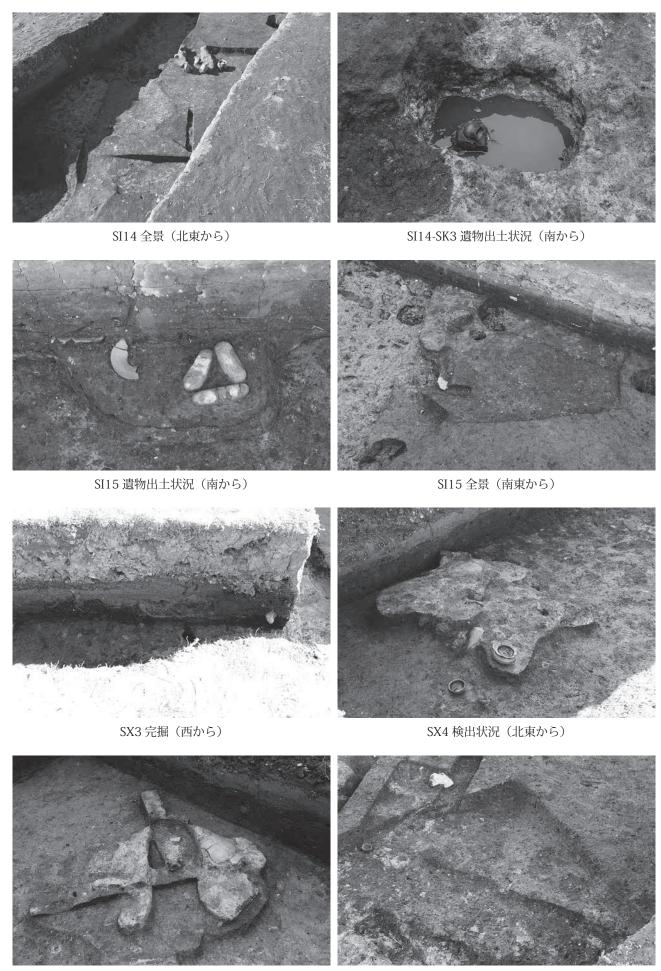
SI8 掘方完掘(東から)

SI10 全景(北東から)



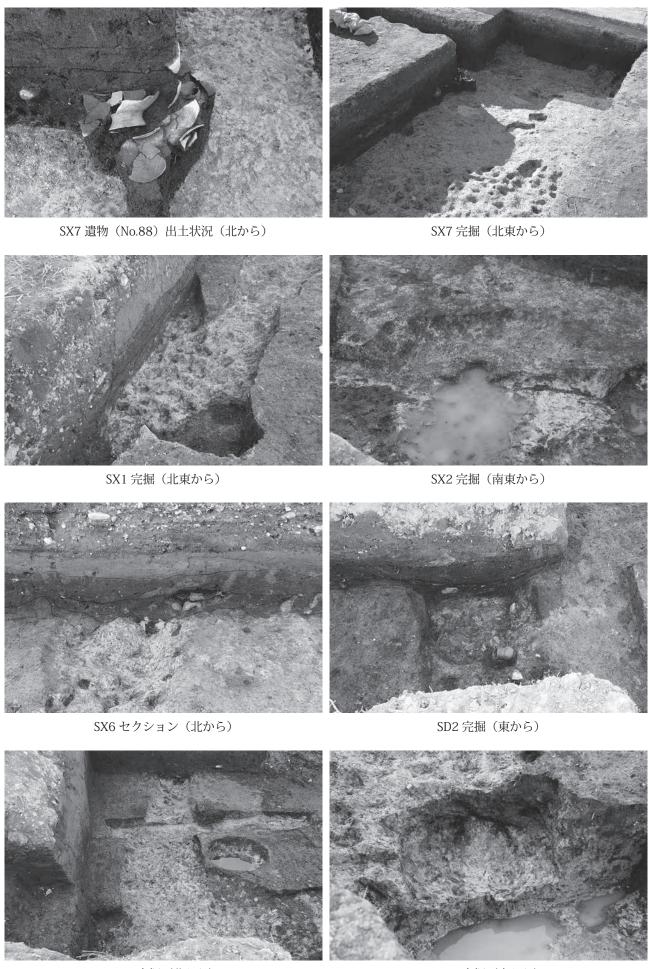
SI14 遺物出土状況(東から)

SI14 カマド全景(北東から)

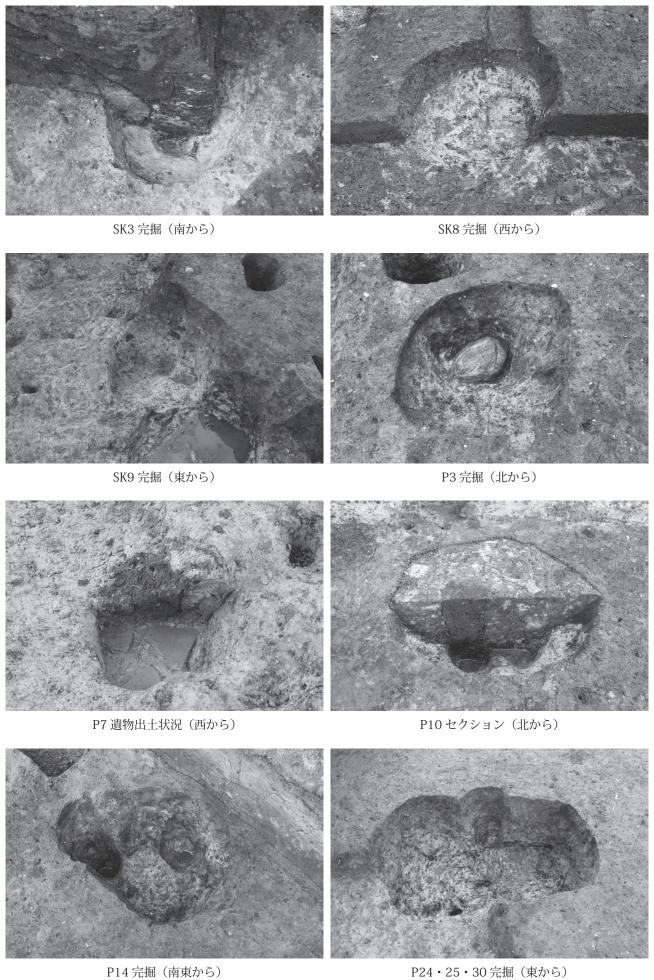


SX4 全景(北西から)

SX5 完掘(南西から)



 SD3 完掘(北から)
 SK2 完掘(東から)



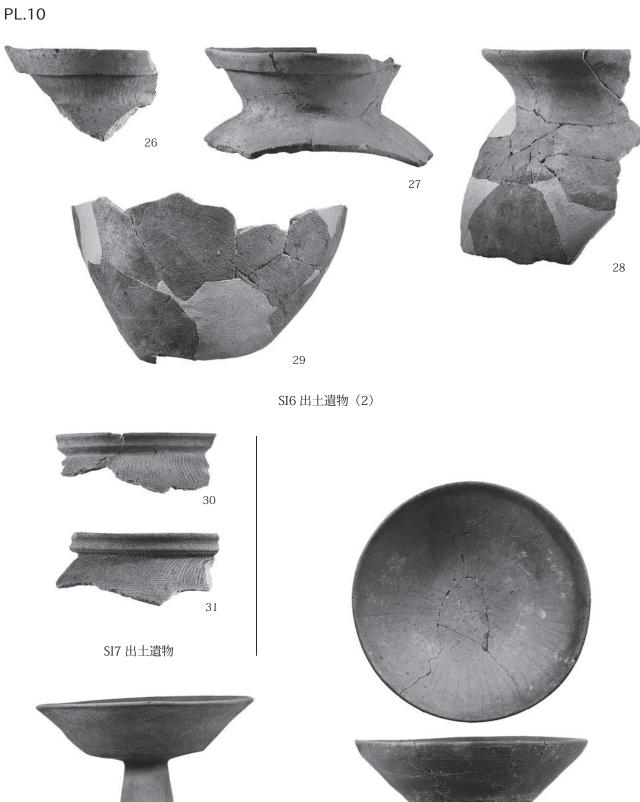
P24・25・30 完掘(東から)



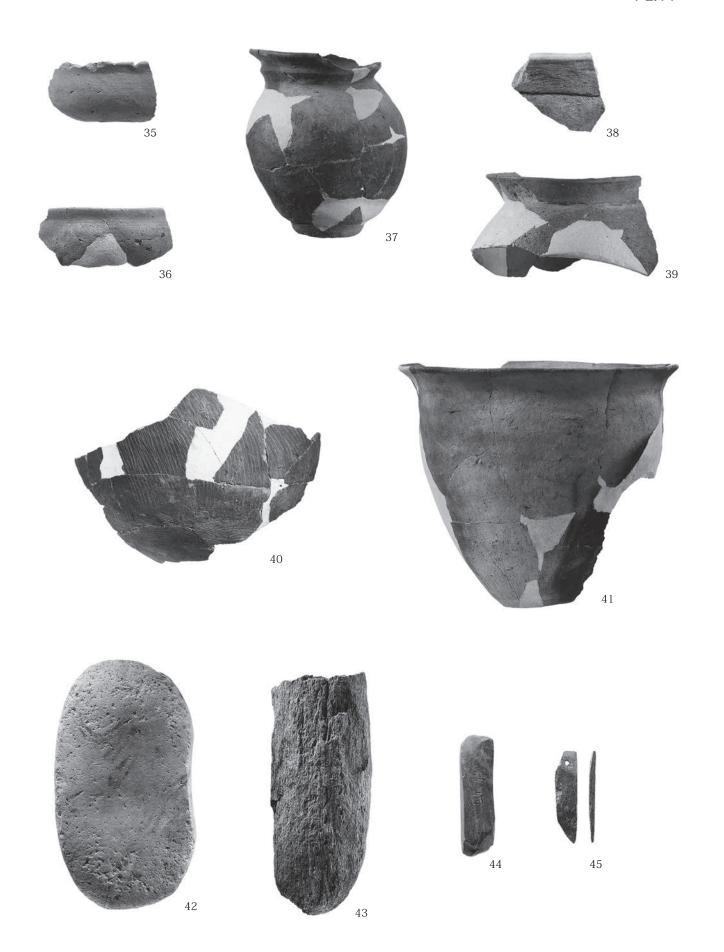
SI4 出土遺物(1)



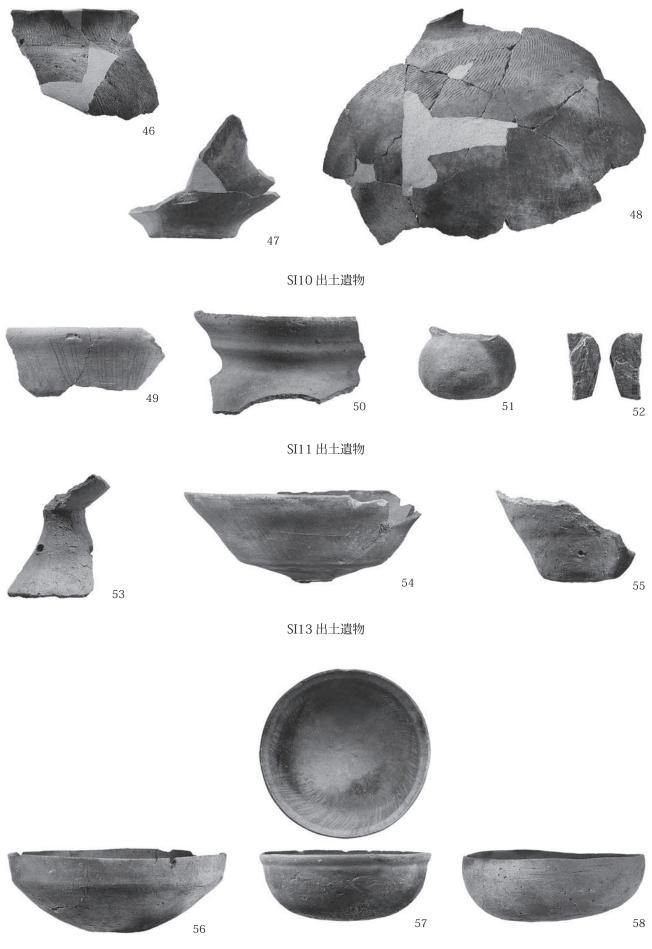
SI6 出土遺物(1)







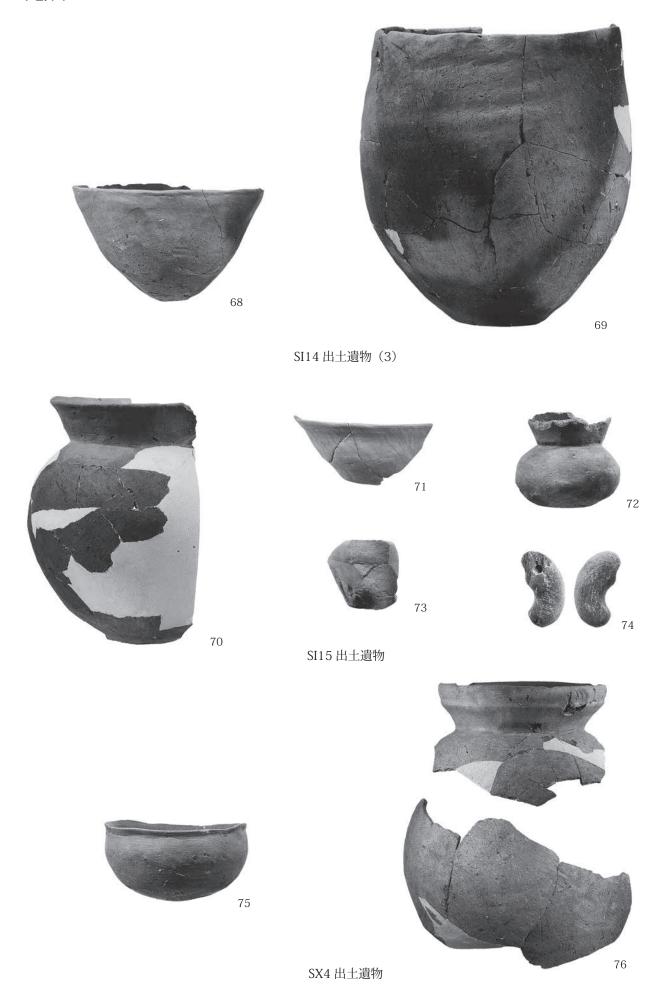
SI8 出土遺物(2)



SI14 出土遺物(1)



SI14 出土遺物(2)





SX7 出土遺物



その他の遺物

報告書抄録

フリガナ	ナカイマチイッチョウメイセキ5
書 名	中居町一丁目遺跡5
副 書 名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻 次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第475集
編著者名	菊池康一郎
編集機関	株式会社シン技術コンサル
所 在 地	〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井311-1
発行年月日	2022年6月30日

が りょう ナ	アリガナ 所在地	コー 市町村	-ド 遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
^{ナカイマチイッチョウメ} 中居町一丁目 ^{イセキ5} 遺跡5	タカサキシナカイマチ 高崎市中居町 1チョウメ8バンチ3ゴウ 1丁目8番地3号	102024	832	36° 19′ 15″	139° 02′ 11″	2021.11.1 ~ 2021.12.24	249m²	集合住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中居町一丁目 遺跡5	集落	古墳時代	竪穴建物跡 竪穴状遺構 ほか	土師器・石製品 ほか	
要約	落跡を調査	東部の井野川低地帯右 をした。周辺では古墳 复数調査されており、	質時代前~終末期の集	落の他、弥生時代後	

中居町一丁目遺跡5

-集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査-

令和 4 年 6 月 29 日 印刷 令和 4 年 6 月 30 日 発行

> 編集/株式会社シン技術コンサル 群馬県佐波郡玉村町板井 311-1 電話 0270-65-2777

発行/ 高崎市教育委員会

群馬県高崎市高松町 35 番地 1 電話 027-321-1291

印刷/細谷印刷有限会社